

平成27年第4回嬉野市議会定例会会議録

招 集 年 月 日	平成27年12月4日					
招 集 場 所	嬉野市議会議場					
開 閉 会 日 時 及 び 宣 告	開議	平成27年12月11日 午前10時00分			議 長 田 口 好 秋	
	散会	平成27年12月11日 午後3時02分			議 長 田 口 好 秋	
応（不応）招 議員及び出席 並びに欠席議員	議席 番号	氏 名	出欠	議席 番号	氏 名	出欠
	1番	生 田 健 児	出	10番	山 口 政 人	出
	2番	宮 崎 良 平	出	11番	芦 塚 典 子	出
	3番	川 内 聖 二	出	12番	大 島 恒 典	出
	4番	増 田 朝 子	出	13番	梶 原 睦 也	出
	5番	森 田 明 彦	出	14番	田 中 政 司	出
	6番	辻 浩 一	出	15番	織 田 菊 男	出
	7番	山 口 忠 孝	出	16番	西 村 信 夫	出
	8番	田 中 平 一 郎	出	17番	山 口 要	出
	9番	山 下 芳 郎	出	18番	田 口 好 秋	出

地方自治法 第121条の規定 により説明の ため議会に出席 した者の職氏名	市長	谷口 太一郎	健康づくり課長	染川 健志
	副市長	中島 庸二	子育て支援課長	池田 秋弘
	教育長	杉崎 士郎	市民協働推進課長	緒方 俊裕
	総務企画部長	池田 英信	文化・スポーツ振興課長	宮崎 康弘
	市民福祉部長	田中 昌弘	福祉課長	
	産業建設部長	山口 健一郎	農林課長	
	教育部長	堤 一男	うれしの温泉観光課長	宮崎 康郎
	会計管理者 会計課長兼務	井上 親司	うれしの茶振興課長 農業委員会事務局長兼務	宮田 誠吾
	総務課長 選挙管理委員会事務局長兼務	辻 明弘	建設・新幹線課長	早瀬 宏範
	財政課長	中野 哲也	環境水道課長	副島 昌彦
	企画政策課長	池田 幸一	教育総務課長	峯崎 幸清
	税務収納課長	諸井 和広	学校教育課長	池田 正昭
	市民課長	大島 洋二郎		
本会議に職務 のため出席した 者の職氏名	議会事務局長	納富 作男		

# 平成27年第4回嬉野市議会定例会議事日程

平成27年12月11日（金）

本会議第4日目

午前10時 開議

## 日程第1 一般質問

順次	通告者	質問の事項
1	増田朝子	1. 大会・イベントへの市民参加と情報発信について 2. 市民協働のまちづくりについて 3. 「嬉野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について
2	宮崎良平	1. 観光問題について 2. 企業誘致について
3	生田健児	1. アパートの住環境について 2. 湯けむり広場について 3. リバティについて 4. 住民票発行等の機械化について
4	山口要	1. 次年度予算編成に関わる諸問題について 2. 福祉対策について 3. 健康対策について 4. 防災対策について 5. 産業活性化対策について 6. 地域活性化対策について

---

午前10時 開議

### ○議長（田口好秋君）

皆さんおはようございます。一般質問もいよいよきょうで最後でございます。最後までよろしくをお願いします。

本日は全員出席であります。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。本日の議事日程につきましては、お手元に配付のとおりであります。

日程第1. 一般質問を行います。

通告順に発言を許します。

4番増田朝子議員の発言を許します。増田議員。

### ○4番（増田朝子君）

皆さんおはようございます。議席番号4番、増田朝子でございます。

ことしも早いもので、あと20日となりました。世界ではパリの同時多発テロ、ロシア航空機墜落もテロの可能性が高いとあり、想像を絶するようないろいろなことが起こり、緊迫した世界情勢であります。

国政においてはマイナンバー制度が導入されましたが、初動からいろいろな問題が発生し、通知カードの誤配や紛失で届かなかつたりとか、本市でも使いこなせるだろうか、個人情報は大丈夫だろうか、利便性よりも不安感のほうが募ってきている今日です。

このような中、地方自治におきましては、国の大きな変革に翻弄されながらも、本市としての方向性を失うことなく、今だからこそ市民の皆さんの福祉の向上を目指し、また、憂うことなく本市独自の政治をしっかりと行うことが必要と思われまます。

そのためにも首長と議会は、二元代表制、嬉野市の発展を目指すのは同じですが、市長の施策が将来像である歓声が聞こえる嬉野市につながっているか、いい緊張感を持って市民目線で今回も臨みたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、ただいま議長のお許しをいただきましたので、通告書に従い、一般質問をさせていただきます。

今回の質問は大きく3つ、1つ目は、大会・イベントに関する情報発信について、2つ目は、市民協働のまちづくりについて、3つ目は、嬉野市まち・ひと・しごと創生総合戦略についてです。

まず、平成18年1月1日に2町が合併してから本年度で10年になります。来年、28年1月31日には嬉野市制10周年記念式典がとり行われる予定となっております。この10周年の記念事業として、本年1年間を通して毎月のようにイベントが開催されております。また、11月14日には、「第3回全国健康都市めぐり in 嬉野」全国大会がリバティにて開催されました。全国大会ということでたくさんのお客様をお迎えしてのセレモニーでしたが、昨年からの準備にもかかわらず、市民の方の参加が少なかったように思います。

そこで、市長にお伺いします。この事業の概要と、この大会を終えての所感をお伺いいたします。

再質問とあとの質問は質問席からさせていただきます。

○議長（田口好秋君）

ただいまの質問に対して答弁を求めます。市長。

○市長（谷口太一郎君）

皆さんおはようございます。それでは、増田朝子議員のお尋ねについてお答え申し上げます。

市制10周年の大会・イベントへの市民参加と情報発信についてというお尋ねでございました。その中で、「第3回全国健康都市めぐり in 嬉野」全国大会についてということござ

います。

この事業の概要と、この大会を終えての所感をということでございまして、この大会はテーマとして「健康都市&うれしのユニスポ」を掲げ、本市が進める人に優しいまちづくりやボッチャを中心とするユニバーサルスポーツ、ユニスポの取り組み紹介及び普及啓発、そして、本イベントを契機に、さらなる推進を図っていくという目的で実施いたしましたところでございます。パネルトークやゆっつらくん健康体操の体操実演、体操動画大賞の表彰式や「ユニスポ・ボッチャ」体験競技大会、UDと健康づくり展示広場、ボッチャ以外のユニスポ体験、地元食ふれあい広場などを実施したところでございます。

今回のイベント実施や実施のための各種団体との連携協力により、ユニバーサルデザインやユニバーサルスポーツ、そして、健康づくりに対する市民の御理解をいただいたものと考えているところでございます。

大会を終えての所感をということでございますけれども、今回のイベントにつきましては、いわゆるパネルトーク等につきましては参加が非常に少なく、まだ課題があったというふうに思っております。ただ、後ほど開催いたしましたゆっつらくん健康体操等の公募から応募状況、また、実演、そして、ボッチャ等の触れ合いにつきましては、市民の方が御参加いただいて、一定の成果を上げたものと考えているところでございます。

以上で増田朝子議員のお尋ねについて、お答えいたします。

**○議長（田口好秋君）**

増田議員。

**○4番（増田朝子君）**

ありがとうございます。

同じ質問になりますけれども、今大会の実行委員長を副市長が務められたんじゃないかなかったですかね。（「はい」と呼ぶ者あり）同じ質問ですけれども、大会を終えての所感を実行委員長である副市長と担当課長にお伺いいたします。

**○議長（田口好秋君）**

副市長。

**○副市長（中島庸二君）**

お答えいたします。

かなり準備期間を持って行ったわけでございますけれども、やはり一番の問題やったのは、先ほど市長が申しあげましたように、フォーラムのときですね、その参加が非常に少なかったというのは非常に反省をしております。これについてはいろいろ見方があるわけですが、非常に天気も悪くございました。そういうことで、また、どういふのをパネルディスカッションでもされるかというのが、やっぱりその辺の周知は少しおわかりにならなかったのかなという気がいたします。それ以外は非常にボッチャにしても、いろいろな競技

についても、身障者の方、また、一般の方も、現在も実際かなりあちこちで競技として定着しているようです。この間、ちょっと打ち合わせを聞きましたら、その用具ですね、用具の貸し出しあたりも、結構最近、文化・スポーツ課に貸してくださいという形でされておりますので、順調に普及をしているんじゃないかならうかと思えます。

これを一つやったのは、オリ・パラの種目になったということが非常に大きいと思えますので、今後、非常にこの競技については期待が持てるんじゃないかと思えます。特にユニバーサルデザインということで人に優しいまちづくりをやっておりますので、この大会を開いたこと自体、非常に有意義だったということで思っております。

以上でございます。

**○議長（田口好秋君）**

市民協働推進課長。

**○市民協働推進課長（緒方俊裕君）**

所感をということでございます。実際、市長あるいは副市長も答弁をいたしましたように、パネルトーク等については非常に人数が少なかったということは痛感をしておるところでございます。

ただ、次の質問とも若干関連するかもわかりませんが、この広報については全戸配布というのも実施をしております。以前よりさまざまな形での情報の発信というのは当然行っておりました。しかも、11月10日には佐賀新聞の紙上において広告記事を掲載して周知を図ったところでございます。その結果として、パネルトークについてはそれでも少なかったということは実感をしておるところでございます。

ただし、それ以外のゆっつらくん健康体操を普及させるということ、それと、ボッチャの普及を図ると、その2つについてはすばらしい成果が上がったのではないかというふうに感じておるところでございます。

以上でございます。

**○議長（田口好秋君）**

増田議員。

**○4番（増田朝子君）**

今の御答弁では、パネルトークとか、そういうセレモニーに関しては参加者が少なかったけど、あとのゆっつらくん体操とか、ボッチャの体験競技はよかったというお答えですけれども、では、それもボッチャとか、ゆっつらくん体操の普及とかも大事ではあるんですけれども、そのセレモニーの中のいろいろパネルトークとか、ここで伊藤数子氏の講演とか、そういうお話、本当に市民の方に、多くの方に聞いていただきたいと思って、私は、この健康都市の全国大会、昨年から計画されていまして、本当に嬉野市にとって一番ふさわしい全国大会だと感じておりました。そこの中で本当にセレモニーに対しても少なかったし、また、

市民の方のお声聞きますには、ちょっといろんな遠くは北海道帯広市からお見えいただいて、また、近隣市町の首長さん、長崎県からもたくさんお見え、また、国会議員の方もおいでになったのに、本当に恥ずかしかったというお声があったんですね。あれだけ少なくても、ちょっと恥ずかしかった。本当に昨年から準備をしていただいたんでしょけど、その本当に何が問題かというところかと思ったんですけれども、検証はきちんとされましたでしょうかというお尋ねをいたします。

**○議長（田口好秋君）**

市民協働推進課長。

**○市民協働推進課長（緒方俊裕君）**

お答えをいたします。

検証ということでございますけれども、当然、パネルトークとかで少なかった分については、まだまだ周知の方法と、そして、周知の期間が若干足りなかったのかなという感じはしております。ただ、私どもも考え得る限りの周知の方法はとったつもりではございますけれども、あと地区の方とか、あるいはコミュニティですね、そこら辺についてもずっと依頼文書というのは当然事前に配布をお願いしたところがございますし、あと考えられるさまざまな団体にも御案内というのはしたところでございます。

その結果として、あの人数ということでありますので、やはり11月14日という日にちもあるんでしょけれども、前後にさまざまイベントが相当立て込んでおりまして、なかなかその日にお出かけいただけなかったというところもありますし、あとは天気の具合というのも当然あったことだろうというふうには考えておるところでございます。

以上でございます。

**○議長（田口好秋君）**

増田議員。

**○4番（増田朝子君）**

さまざまな依頼文書とか出していただいたということですが、それでも、今、これだけイベントが多くて、先ほど言われましたように、イベントが多くてなかなかチラシにしても各戸配布をしていただいた、コミュニティとか、いろんな依頼文書も出されたにもかかわらず、これだけ参加者、市民参加が少ないということが、ちょっと気になるんですけれども、今後、そういうことが本当に、私もここ議員になりましてから、いろんなイベントにちょっと顔を出させていただいていますけど、担当者と関係者の方、本当に市民の参加が何か少ないなというのを特に感じているんですね。

そこで、どうしたら本当に市民の方が参加していただけるんだろうかと思ったときに、今回の全国大会に関しては、先ほどコミュニティセンターとかの依頼文を出されたと言われますけれども、そのチラシの配布の時期とかが期間がなかったんじゃないだろうかということ

と、あと例えば、コミュニティセンターに依頼文書を置くだけじゃなくて、こういうふうな趣旨でしますよという担当者の方から回っていただいて、そういう説明をしていただいて、そこからまた地区に広げていただけるのも一つの方法かなと、いろんな会合とかコミュニティでもありますので、きちんとした趣旨なり、こういうことをしますということをしちんと伝えられてからも一つの方法かなとは思いますが、それとか、あと今回の、前にも申しましたけれども、リバティの落成式のときにも申しましたけれども、例えば、嬉野地区の方は何がっているかわからないとよく言われるんですよね。このことに関して、リバティの近くの方も知らんやっただけというお声もあるらしいです。でも、それに対していろいろ行政としてはいろんな形で広報とか周知とかしていただいていると思うんですけども、そこをもう一步、参加していただくためには何が必要かなというところ、本当にもう一回考えていただきたいなと思いますし、あと、今回の予定の集客としては1,000人から1,500人という関係者からのあつて、そこに出席される方が言われていたんですけど、そういうことでちょっと出してくださいと言われてたって、でも、中身に対しては何がっているんだろうかということを実際言われました。だから、そういうことが周知できていないのかなって。例えば、そういう出席していただく方に対して、どこかコミュニティとかに対しても、大会の意義とか趣旨とかをもう少し丁寧に説明していただけたら、じゃ、本当にそのコミュニティに来られる方にも、そこにチラシを別に置いてもらって、持ってもらって、また、配っていただくのも一つの方法かなと思うんですけども、先ほど言われましたボッチャとか、ゆっつらくん体操、関心のある方は、それは参加されると思います。それ以外にいかに市民の方、ほかの市民の方に、せっかく全国大会ということですので、本当に私もっと期待していたんですよね。昨年からのということであるので、それにもう一つなんですけど、全体予算が402万円、そのうち市負担が250万円という、この金額ですね。その金額に対して市民の方が本当にこれだけかけて潤ったのかなということがちょっと思うんですけども、その辺はいかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市民協働推進課長。

○市民協働推進課長（緒方俊裕君）

お答えをいたします。

先ほどおっしゃられたように、周知の方法に若干足りないところがあったのかなということとは認識をしておりますけれども、ただ、言わせていただきますと、コミュニティに関しても、それから、先ほど出展者の方がどういうことがっているのかわからないというふうにおっしゃられたということでございますけれども、出展者の方も全て実行委員会に入らせていただきまして、これはどういう目的でこの大会を開催するものかという説明というのは当然何回もやっているところでございます。コミュニティに関しても、こういうふうな理由で



こういう大会をやりますという説明というのは当然行っておるところでございます。そこは御理解をしていただきたいと思います。

それと、確かにおっしゃられるように、ゆっつらくん健康体操とか、それから、ボッチャとかについては、興味のある方だけがというふうにおっしゃられておりますけれども、実際、健康体操にいたしましても、実際の投稿をされた動画というのは22本ございました。22本ございましたけれども、それに至るまでは、市内の各団体、それから、福祉団体とかさまざまな団体、学校等も含めて全部回ってCDとDVDをお渡しして、こういうふうなことでやりますと、投稿をされないにしても、これをぜひ組織で取り組んでくださいというお願いを全部回っております。そういうこともやっておりますので、それは結果としては、その人数と、ゆっつらくんの健康体操にしても実際その会場には100人前後の方はいらっしたんですけれども、それ以外にも相当な周知のための努力はしておるということだけは御理解をしていただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

ただいま御答弁いただきましたので、本当に一生懸命していただいていたというのは理解できました。

では、このユニスポのボッチャですけれども、こちらのチーム数と参加人数をお尋ねします。

○議長（田口好秋君）

市民協働推進課長。

○市民協働推進課長（緒方俊裕君）

お答えをいたします。

ボッチャの大会については、参加チームが19チームでございます。参加の人数が全体で100人でございます。実際チームとして参加をされた方が90人と応援者が10人ということで100人でございます。内訳を申し上げますと、福祉関係が8チーム、それから、コミュニティ関係が8チーム、一般参加が3チームということで、合計の19チームでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

全体で19チーム、100人の参加ということですが、これを見たときに、ユニスポとはユニバーサルスポーツの略ということで、老若男女、障がいの有無、人種にかかわらず、

全ての人と一緒に参加して楽しめるとありますけれども、ここに今回ちょっと感じたのは、せつかくユニスポのボッチャということを普及させていただくには、先ほどの関係者もですけど、そのほかに誰でもできる簡単なスポーツでありますので、老人会とか、子ども、スポーツ団体にももっと声かけられてもよかったんじゃないかなと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市民協働推進課長。

○市民協働推進課長（緒方俊裕君）

おっしゃるとおりでございますが、今回お声がけをしたのが、特に福祉関係の団体、それから、一般のコミュニティということで、障がいをお持ちの方も、それから、健常者の方も同じスタートラインに立って、同じスポーツを、同じ目線で楽しむということで実施をしたところでございまして、ボッチャに関しても各地区の老人会とか、あるいは各地区においても取り組んでいらっしゃるというふうなことは当然聞いております。

ただ、チーム数が、運営の時間帯等もございまして、なかなか相当多くのチーム数を集めましても、運営に支障を来すというところもございまして、一応の皆様方への周知啓発というのは当然図っておるところでございますけれども、19チーム集まった時点で締め切ったといいますか、19チームで運営をしていこうというふうなことで決定をしたところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

今回のボッチャに関しても、ある程度チームを制限されてということでされたということで、あと福祉関係の方を対象にということで、はい、理解できました。

今後、そのようにボッチャの普及のためには、先ほど言いました老人会とか子どもさんとか、そういう方にも広げていっていただきたいと思います。

最後にですけど、この健康都市ということですけども、この目的が市民の意識づくりになったかと感じられていますかということ、最後、市長にお伺いします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

健康都市めぐりにつきましては、以前から私どもが取り組んでおりますユニバーサルデザインのまちづくりの中で、これを進化させていこうということで動きもしてきたところで

ざいますので、これは継続的に努力をしなくてはならないというふうに思っております。

また、大会の中身にありましたように、今までは障がい者の方はなかなかスポーツを取り組みにくいということですが、この提案を機に、ユニスポという新しいことを全国に広げていこうというようなことで講師の方も御意見を出されましたので、私たちもぜひ障がいをお持ちの方であってもスポーツが楽しめる、そういうことを市民の方に御理解いただくような努力をしていきたいというふうに思っております。

市内での大会につきましては、そういうことでございますけど、これは健康都市の関係する団体がありまして、そこがまた健康都市に関する機関誌、定刊誌を出しておりますので、それでまた告知も全国的にさせていただきましたし、また、今回の結果についても掲載いただくということで、全国的には私どもの開催については広報は十分できているというふうに思っておるところでございますので、嬉野の特徴をこれからも伸ばしていけるような努力をしていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

はい、わかりました。

こういう全国大会というもの、先ほどから申しますけれども、本当に周知の仕方を今まで以上の取り組みを心がけていただいて、本当に市民の方が一人でも多く参加していただくようお願いしたいと思います。

では、次に、市制10周年ですけれども、この市制10周年の記念事業の趣旨と目的をお願いします。お尋ねします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

市民の皆様の御理解をいただきながら、嬉野市が10年を迎えるわけでございますので、市民の方それぞれ、さまざまなお考えをお持ちの方はいろいろいらっしゃるわけございまして、多様性があっていいというふうに私は思っております。

そういうようなことに多様性がある方々に対して対応できるような10周年というイメージづけを行うために、10周年の記念事業を行っておるところございまして、ただ、10周年記念事業と申し上げましても、いわゆる既設、今まであった事業に冠を乗せさせていただくというのが多いわけですが、新規でもいろいろ取り組んでおるところございまして、来年、年明けてからも行いたいと思っておりますので、ぜひいろんな方に御参加をいただ

ればと思っております。

それで、今まで開催しました既設の大会等につきましては御理解をいただいていると思っておりますけれども、やはり文化関係の事業とか、先ほど言いましたシンポジウムとかになりますと、やはり中身によっては非常に、俗に言う一般的であるとか、専門的であるとか、分ける方法もあるかと思っておりますけれども、非常にかたい事業につきましては、なかなか動員のほうも厳しい面があるというふうに思っております。しかしながら、それはそれで御理解をいただいておりますので、10周年の意味を御理解いただければと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

今回、この10周年記念の冠イベントというのが結構行われているんですけども、これも先ほどからの関連になるんですけども、本当にイベントが多過ぎて、皆さんちょっと本当に何が起きているのかわからないというか、そういうのを聞くんですよね。例えば、各コミュニティでも地域のための地域おこしのイベントがあっっているし、各行政地区でも結構いろんなのがあっっていて、本当に同じ日に重なったりとか、行きたいけど行けない、そういうのもあっって、なかなか集客につながっていないんじゃないかなというところもちょっと思いますし、先ほどから申しますように、周知的にいろいろ本当にホームページ、回覧板、各戸配布とかしていただいているんですけども、なかなか先ほど市長答弁ありましたように、リバティで開催されていますいろんな事業に対しても、本当にチケット販売になかなか苦労されていらっしゃるみたいなんですけれども、そこの中でこの10周年というのを考えた場合に、本当に10周年を祝うだけのイベントでいいのだろうかというのをちょっと感じたもので、この問題を取り上げさせてもらったんですけども、10周年ということは、10周年の節目に当たり10年の歩みを振り返り、10周年を祝うとともに、これからの未来に向けた新たな出発の機会にすべきと思うんですけども、何かイベント、ちょっと言葉はあれなんですけれども、イベントばかり何かいつもあっっていて、何かそれに振り回されて、何か担当者の方も1つ準備して、当日があっって後片づけ、また、準備して、当日があっって後片づけという、何かそれに時間的には振り回されていらっしゃるんじゃないかなというのをちょっと感じていたもので、そこら辺がちょっと、実行委員で話をされたと思うんですけども、多いんじゃないかなと思うんですけども、いかがなんでしょうか、イベントとして。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答えを申し上げます。

10周年につきましては、以前の議会でも意義等についてのお尋ねもあったところでございますので、そこらを十分踏まえて活動をしておるところでございます。10周年の、今、お話がありました、10年を振り返り、そして、先人に敬意を表して、次の世代へ向けていくということにつきましては、1月のいわゆる記念日と考えております31日に、私どもとしましては10周年記念式典を開催させていただくというふうに思っておるところでございます。そういう点では10周年を振り返り、そしてまた、次の世代につなげていくという形での御挨拶等も当然いただくとお思いますし、そういうことにさせていただきたいと思っております。ただ、10周年を兼ねてイベントをずっと展開しておりますのは、この全体の年間を通じて、市民の皆さん方に10年たったと、これから歴史を大切にしていこうというふうなことを意識としてお持ちいただくように、いろんな企画をしているということでございますので、御参加につきましては、それぞれのイベントに市民の方が御理解と興味を持っていただいて御参加いただくという形で進めているということでございます。

そういうことで、先ほど申し上げましたように、既存のイベントもございますし、新しく組み立てたイベントもあるということでございます。

また、リバティでのイベントが多いじゃないかということでございますけど、これにつきましては開館しまして1年ちょっとでございますので、意識的に今、イベント等を導入しまして、リバティの開設効果と、また、開設した市民への1度はリバティを見ていただくということも必要でございますので、意識的にやはりイベント等は集中をしておるということは事実だろうというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

リバティの1周年ということで、イベントに関しては、今、市長が答弁されましたように、リバティにも来ていただきたいということで開催されていると認識しておりますけれども、なかなかこの10周年に関してのイベントとして、ここに嬉野市は600万円の予算をかけられております。その600万円をかけて、そこまでイベントにかけていいものなのかなと思って質問させていただいているんですけども、例えば、ことしの3月1日、小城市が記念式典をされています。その中で冠事業も含めて200万円の予算でされておりますけれども、私がちょっと感じるのは、先ほどこれからの嬉野市を見詰めていくという意識づけのイベントにもなっていると言われますけれども、そこが本当に市民の方に浸透しているのかなということを感じたものですから、この600万円の財源を使って、本当に市民の方にそれだけ浸透しているのかなというのをちょっと感じたもんで質問させていただきましたけれども、いか

がでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

先ほどから申し上げておりますように、10周年のいわゆる本番だけの予算で考えますと、ほかの市町村とあんまり変わらないという程度の予算だろうというふうに思っておりますけれども、しかし、それ以外も、先ほど言いましたように、全体的なりバティとの関係もございますし、また、市のイベントに対する理解の度合いということもいただきたいということで、年間を通して企画しているわけでございますので、それにつきましては議会でもいろいろ御意見をいただきましたけれども、しっかりとした形で運営をさせていただいているというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

では、来年1月31日の記念式典に向かって、もう少し期間がありますので、本当になるべく多くの方が記念式典に参加していただけるように、これからも担当課の方とか関係者の方に、していただいていると思いますけれども、それに向けて頑張っていただきたいと思えます。本当にその日が市民挙げてお祝いできるような形でなっていきたいと願っております。

それでは、次の市民協働のまちづくりについて御質問をさせていただきます。

総合計画後期基本計画の中につながるんですけども、110ページの行政への住民参加ということがありますがけれども、ここの中で市民ニーズを把握するとありますけれども、市長はどのような形で市民ニーズを把握されていますでしょうか、お尋ねします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

総合計画を初め、市の各種計画策定の際には、まず、住民アンケート等が一般的に実施されるわけでございますので、私どももそういう手法を用いて市民の方の御意見を伺うということからスタートをさせております。

また、計画等の策定委員会等の委員の方には、多くの関係団体から参画して、また、委員の公募なども実施して、広く市民の御意見や御要望を施策に反映をしているところでござい

ます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

次のページの主要施策の中で、市民の意見により広範にかつ後世に反映できる制度とありますけれども、このことについてお尋ねします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

それぞれの組織、団体がございますので、そういう組織と常に基本的にはもう連携をとっていくということが大事だろうと思っておりますので、そういう取り組みを進めているということでございます。

もう1つは、やはり地域の代表の方の行政嘱託員さんとか、また、地域から選ばれた、組織は違いますが、民生委員さんとかいらっしゃいますので、そういう方々との連携を十分とって行って市民の方の御意見をいただくような、そういうことを繰り返しやっていくというふうに取り組むをするということが大事だろうというふうにご考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

では、先ほど言いました市民ニーズを把握ということで、次に、対話集会ということを上げさせていただいているんですけれども、この対話集会、まず、市長は合併した当初すぐ対話集会を各地区でしていただいたんですけれども、これまで実施された対話集会は、いつ、どこでされましたでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

対話集会につきましては、嬉野町長に就任しましてから、すぐ始めたわけでございます、大体2年から3年に1回ずつ開いております、その当時は県内ではまだ誰もやっておられなかったんじゃないかなと思っております。

そういう中で、合併してからも対話集会を行わせていただきました。平成18年、それから、平成21年、平成24年度に行っておるところでございまして、主に場所は各地区の公民館でございまして。

それで、3年間の開催回数は延べ118回、実施行政区は延べ200地区になっております。平成18年度につきましては全地区行いましたけれども、平成21年、平成24年につきましては、各地区で協議をしていただいて、そして、合同でされる場合は合同で結構ですよという形で開催いたしました。

これに加えて、前期、市長になって2期目からは、いわゆる団体との対話集会も定期的に開催しております。例えば、商工会青年部の方とか、民生委員さんの会とか、そういうような方と定期的に年間やっという事で対話集会を行っているところがございます。

以上でございます。

**○議長（田口好秋君）**

増田議員。

**○4番（増田朝子君）**

これまで二、三年に1回ということで、これまでに118回、200地区で開催していただいたことですが、これから地方自治のキーワードは対話とコミュニティとよく言われています。その中で本当に対話というのが大事になってくるかと思っておりますけれども、ここで本当に私ごとで申しわけないんですけども、18年の7月に、私、吉田皿屋出身なんですけれども、対話集会をしていただきました。そのときに市長に来ていただいて、市長、これ覚えていらっしゃいますか。ゴミ袋です。そのときに私も対話集会に参加させていただいて、合併してからすぐこのゴミ袋、これが小でした。小のゴミ袋、しばらくですね。皆さん御存じないかと思っておりますけれども、御存じの方もいらっしゃると思っておりますけれども、これが小のゴミ袋でした。それで、そのときに私が使っていて物すごく不便を感じたんですよ。そのときに市長にもお伝えしました。これがゴミ袋の小だけど、本当に使いにくいですと、覚えていらっしゃいますか。「僕も使っているけど不便を感じません」と、そのとき市長は言われました。その後、私が佐賀市出身なので、佐賀市がこのサイズの小がありました。それを窓口に持っていったんですけども、そのときに、秋ぐらいにはもうこちらに変わっていたんですよ。それが直接私には何も行政のほうからなかったんですけども、ちょっとした生活の困りごと、これがあつたらいいなということそのときに対話集会で提案させていただいたんです。それが本当の対話というのが、一市民の声が市政に届くというか、それじゃないかなといつも思っているんですけども、そこの中で市政に取り上げてもらったというのが市民参画というか、政治に参加するというのが本当の市民ニーズということじゃないかなと思っておりますけれども、市長、いかがですか。覚えていらっしゃいますか。



○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

ごみ袋の件につきましては、縦型、横型という話があるわけございまして、いろいろ御提案もいただいてありがとうございます。そういう形で今やっているんですけど、最近になりまして、また、逆のほうがいいという意見が出まして、なかなか難しいなどは思っているんですけども、いろんな御意見をいただきながら、それはいい形で進んでいければいいんではないかなと思いますので、引き続き市民の方には御意見をいただければと思っているところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

そのようにして本当に生の生活の声をお聞きしていただきたいなと思ってここに取り上げさせていただいたんですけども、前の議会で、今期は対話集会をされていませんという御答弁がありましたけれども、もう一度、あと今期も2年残すところになりましたけれども、地域に出向かれて対話集会をされる御予定はないでしょうか。していただきたいんですけども。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

前回もお答えしましたとおり、大体2年から3年ごとにしておりますので、前回もそれくらいのペースで行いますということでお答えしていると思いますけど、お答えをしていなかったら、するつもりでおります。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

ありがとうございます。ぜひですね、なかなか市民の方は声が届かないもんねとか、そういうことを言われる方もいらっしゃいますので、ぜひ地区に出向いていってもらって対話集会をしていただくようによろしく願いいたします。

じゃ、次ですけども、ここに嬉野市を語るワークショップの開催をしてはどうかという

のを上げているんですけれども、これは本当は総合戦略を策定されるときにしていただきましたかったことなんですけれども、これも先ほどの集会と重なるところあるんですけれども、やはり嬉野市の未来を語るというか、そういう一人一人の声が届くというか、そういう場の設定というか、それをしていただきたいと思ってこれを上げさせていただきました。というのは、今回、総合戦略を作成するに当たり、白石町でも未来をかたろう会が町全体でされていらっしゃるし、その中でよかったということは、皆さんが楽しかったと、参加した人が楽しかった、2時間の時間ですけど、短く感じたという御意見があったりとか、あとその町の方のお話では、今後ほかの計画にもファシリテーションを使う予定というのがありました。あと武雄市さんでもワークショップが各中学校区5カ所で行われていて、その後、ある地区ではファシリテーター、このファシリテーターは専門家の方を福岡から呼ばれたそうです。ある地区では自主的にワールドカフェを今も行っているということでお聞きしました。

それで、このように各それぞれコミュニティも嬉野市はあるので、各地区でそういうワークショップとかを今後いろんな計画を立てる上でしていただきたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

**○議長（田口好秋君）**

市長。

**○市長（谷口太一郎君）**

お答え申し上げます。

ワークショップによる地域づくりということでございまして、これは以前から私どもも取り組みもいたしたこともございまして、いわゆる100人委員会とか、そういうものをつくりましてやったわけでございます。先般も塩田の公民館では、まちづくり委員会の方々が取り組まれたのではないかなというふうに思っておりますので、機会があればぜひ導入をして、市民の御意見とか、いろんな形がまとまりやすい方式だと理解していますので、それについては機会があれば取り組みをできるんじゃないかなというふうに思っています。今までもやっておりますので、ぜひ継続はしていきたいと思えます。

以上でございます。

**○議長（田口好秋君）**

増田議員。

**○4番（増田朝子君）**

では、ぜひ今後の市民のニーズを把握するためにも、ぜひ取り組んでいただきたいと思えます。ありがとうございます。それによって、市長がいつも言われています市民の皆様とともにとか、歓声が聞こえる嬉野市にぜひ実現していただきたいと思えます。

では、次に、嬉野市まち・ひと・しごと創生総合戦略についてお伺いいたします。

まず、1日目の一般質問のときにも質問があったんですけれども、この総合戦略に対して

市長の今後の取り組み方をもう一度、すみませんけど、御答弁をお願いします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

いわゆる嬉野市まち・ひと・しごと創生総合戦略につきましては、先般から市民の方の御意見もいただきながら、また、新しい産官学、また、言論界の皆さん方も入っていただきながら計画をつくり上げて、議会の御承認をいただいたわけでございますので、ぜひ実績が上がるように努力をしてみたいというふうに思っております。

その後、しかし、国とのいろんな協議の中で、全ての政策がそこに方向性として向いていく必要があるというふうなことを聞いておりますので、いろんな政策を考える中で、私たちはそれをどこに位置づけていくのかというのが私どもの責任であろうと思っておりますので、そこら辺についてはしっかりやってみたいと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

作成していただいた総合戦略ですけれども、本当にいろいろ数値目標たくさん掲げていらっしゃるけれども、これが本当によく言われる絵に描いた餅にならないように取り組んでいただきたいと思っておりますけれども、その中で、議員とかたろう会の中で総合戦略に御意見があったのが、総合戦略が具体的なものが見えないという御意見があって、わかりづらいという御意見がありました。難しい文言もあり、注釈もなかったという御意見があったんですけれども、そこで、私たまたま武雄市の総合戦略をちょっと見てみたら、本当に、内容はともかくよくあれですけれども、本当にぱっと見て見やすかったんですけれども、企画政策課長、見られましたでしょうか、ほかの市町の総合戦略はごらんになられましたか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

うちより先に先行して策定をされた自治体さんの総合戦略も当然見ましたし、武雄市さんの総合戦略についても見ました。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

じゃ、ほかの自治体の総合戦略と比べて、どういう御感想をお持ちですか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

各自治体いろんな特徴があったかと思います。かたく行政と言ったら、ちょっと語弊がありますけれども、ちょっとかた苦しい表現になられている総合戦略もありましたし、先ほど議員のほうから言われました武雄市さん、かみ砕いて、注釈もしっかりつけて、市民によりわかりやすく説明をされている総合戦略もございました。

ただ、総合戦略策定では終わりじゃないと、何が大事かというのは実行に移すことが大事であるという考えでおります。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

先ほど中身が問題じゃないと、実行が大事だということを言われましたけれども、事実、本当にそうしていただきたいんですけど、まず、やっぱりパブコメをするにしても、本当に市民の方に見てもらうには難しかったりしたら、ちょっとどういうことだろうとか、こういう専門用語があったりする場合にちょっと解釈しにくいところがあるかと思いますので、今後、例えば、見直しをされるときに、そういうふうに注釈とか市民にも見やすいような形も、それも検討していただきたいなと一つ思いました。

それで、次に、企業誘致についてですけれども、この総合戦略の中で企業誘致を5年間で150人とありますが、現在の手応えはいかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

企業誘致につきましては以前から取り組んでおるところでございますけど、先方の状況もございまして、今どうこうということは言えませんが、それに向かって、今、協議をしておるということでお答えとさせていただきますと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

今、協議をされているということですが、25年、26年、27年度の資料をいただきました。その中で企業の訪問回数と訪問先という資料をいただきましたけれども、25年が5回で5社、企業セミナーにも参加されております。26年度8回6社、現地視察、この中で嬉野市の物件視察が4社ということです。27年度6回3社の訪問ということで、平成27年も現地視察で嬉野市の物件視察1社とありますけれども、まず、26年度の嬉野市の物件視察で4社とありますけれども、これは物件はどちらだったんですか、お尋ねできますか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

嬉野市の企業誘致の候補地であります今寺地区、嬉野高校の裏ですけれども、それと、温泉区に建物1つ、そういう候補としての物件ございましたので、そちら、あと新幹線駅ができるということで新幹線の駅周辺、そちらをお見せしております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

じゃ、今寺地区と温泉区と新幹線駅の近くの周辺のことですけれども、その後、もうその1回きりの視察で何もなかったんでしょうか。その後、コンタクトみたいな、もう視察だけで終わりですか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

物件を見られて興味が湧かれた企業、そちらは電話、メールで詳しくどういう状況なのかと、そういうふうで問い合わせはあっております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

ということは、その後、もう1回きり。その後、例えば、こちらからもう一回働きかけをするとか、そういうことはなかったんでしょうか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

視察を受けられて、先ほど申しましたように、興味が嬉野の物件に湧かれたところは先方のほうから問い合わせ等もございました。あとはうちのほうからもどうやったでしょうかという形で、双方向でやりとりはやっております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

はい、わかりました。じゃ、27年度の嬉野市物件視察1社というところは物件はどちらでしょうか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

こちらにつきましては、事務系のオフィス、こちらをお求めということで、そちらの物件候補になるものを視察していただいております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

事務系と言われますけど、その物件の大体候補とかは、今、お尋ねできますかね。候補地。候補があったわけじゃないですかね。物件を視察に来られたわけですよね。どのあたりだったかということはお尋ねできますか。

○議長（田口好秋君）

暫時休憩します。

午前11時 休憩

午前11時 再開

○議長（田口好秋君）

再開します。

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

民間さんとの関係もございますので、すみません、答弁は控えさせていただきます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

はい、わかりました。

それでは、じゃ、今、随時こういうふうに企業訪問をしていただいているわけなんですけれども、これまで企業誘致計画、これまでの計画はどうなったんでしょうかというお尋ねをしたいんですけれども、先日、山口政人議員の質問でありました久間地区のことはお話出たんですけれども、吉田地区の誘致計画のところは現在どういう位置づけになっているんでしょうかとか、あとその場所の地権者の人数とか、あと広さとか、あとの計画としてはどういうふうになっているんでしょうかというお尋ねをさせていただきます。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

吉田地区につきましても、久間地区と同様に、農政局との協議、こちらのほうでなかなか進展をしていないという状況でございます。

面積といたしましては7.1ヘクタールございます。そのうち農地が6.5ヘクタールあるわけでございますけれども、地権者の数としては約33名程度の地権者の方がいらっしゃいます。

今後につきましては、農地法の改正等もございましたので、こちらにらみながら県と打ち合わせを進めていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

じゃ、その中で地権者の方とか、地元に対しての説明会は今までにどのくらいされていますかということと、今後、例えば、本当に地権者の方はこの先どうなるんだろうかということをやっぱり心配されていらっしゃると思いますけれども、そのあたりはどんなでしょうかね。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

前回の説明会は平成21年の9月にあっております。それ以後、地元へ説明会はやっていな

いという状況でございます。ある程度見通し等が立てば、説明会を開催していきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

ある程度見通しと言われますけれども、この10年間、私ももう30年ここに、嬉野におりますけれども、何も進展がなかったように思われますけれども、このことに対して市長は本当にこの予定地のところを何とか企業誘致されようと思われていらっしゃるのでしょうか。本当になかなか、頑張っていますよとか、次に手続進めていますよとかいうのが見えないので、市長としては、この前の久間地区にしても、吉田地区にしても、どのようにお考えなんですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

企業誘致につきましては、施策の柱にも置いておりますので、努力をしているところでございます。

また、吉田地区の件に関しましては、以前からいわゆるオーダーメイド方式ということでお話をさせていただいて、地元の方も御了解いただいたわけでございますけれども、それで、先ほど担当課長申し上げましたように、平成21年にどうするのかということで地元の方とお話し合いをいたしました。そういう中で地元の方々も、いましばらくこういう状況で企業の誘致先を探したらどうかという御意見もいただきましたので、地元の方と協議しながら、今の状況になっておるところでございます。それで、企業のほうから話があれば、また、地元のほうにも話をして進展させていければというふうに思っているところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

本当によく市民の方から言われるには、これだけ企業訪問に関しての予算も以前はそんなになかったとお聞きしています。25年度からは結構5回とか、8回とか企業訪問はさせていただいているんですけれども、市長としてのトップセールスはさせていただいているのでしょうか。

○議長（田口好秋君）



市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

いろんな情報を探りながら、私ども直接お願いをしている段階でございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

本当に今から企業誘致、どこの自治体も手がけて頑張っているんですけども、そこが本当に情報量でいろんな情報を入れていただいて、本当に結構地区の関東のふるさと会とか、関西のふるさと会とか出向いていってもらっていますので、そこの中でもいろんな情報をしっかり持ってきていただいて、本当に市長みずからトップセールスをどんどん積極的にしていただけたらと思っていますけれども、その中でここに見てみましたら、企業誘致支援員というのが平成21年に要綱でありますけれども、この嬉野市企業誘致支援員は今のようになっているのでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

企業誘致支援員を私どものふるさと会の方中心にお願いいたしましたけれども、適任者の方がおられないというふうな状況でございますので、今、また再度私どもとしては職員を直接県に派遣しましたし、また、関西、中部のほうにも1人追加して派遣をしているというふうな状況でございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

そういうことで今、職員の方を派遣されているということで。じゃ、これは平成21年に要綱として策定されていますけれども、じゃ、ずっとこの支援員という形の方はいらっしやらなかったということですかね、ずっと。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

合併いたしましてから支援員を設ける前は、うちの職員を県のほうにも企業誘致のほうに派遣をいたしておりました。そういう中で同じ形ということではなくて、支援員を設置したらどうかというようなことで引き揚げまして、それで、ふるさと会とか、そういう方々に声をかけましたけれども、どうしても直接雇用契約を結んでお願いするということができなかったものですから、一応今のところまだ支援員の方は設置しておらないということでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

それでは、この支援員という方は嬉野独自の制度なんですか。それとも、ほかの自治体もあられて、あられるとしたら、ほかの自治体の方はこの支援員の方がいらっしゃるのでしょうかね。御存じですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

制度としては嬉野がつくりましたので、嬉野の制度でございますけれども、ほかの自治体も話を聞けば、そういう制度ではなくて、例えば、案件を紹介していただいたときにはいろんなことで、いろいろ御紹介のお礼というですかね、そういう形である場合もあるという話は聞いております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

わかりました。この企業誘致、本当になかなか議員とかたろう会でも常に毎回のよう、企業誘致、企業誘致と、本当に。そうしないと、帰ってきたい息子が帰ってこられないとよくお話を聞きますので、本当に先ほど言われましたように、一番の施策として取り組んでいただきたいと思います。

次、空き家バンクについてちょっとお尋ねしたいと思いますけれども、この空き家バンクに関しては、この総合戦略の中には空き家対策の推進とって掲げてあるんですけれども、「市内にある空き家のうち、特定空き家認定率を高めることにより、平常時から市民の安心な生活へつなげます。」ということで、さきの質問では同僚議員から空き家対策の老朽化については質問がありましたけれども、今回、私は対策の推進として、まず、空き家バンクで

御質問させていただきたいと思いますが、空き家の状況は先日答弁の中で28年度に調査をされますという御答弁がありましたけれども、空き家老朽化はやっぱり阻止しないといけないんですけれども、最近ではもう新しい家でも結構空き家にどんどんなっている状態がありますので、その再生事業としてこの空き家バンクがあると思うんですけれども、本市の空き家バンクについての課題をまずお尋ねします。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

空き家バンク、本市の場合、登録件数が現在で3件でございます。非常に少ないという状況でございます。空き家はあるけれども、登録があっていないというのがあろうかと思えますけれども、そこで、やっぱり問題になるのは、改修、リフォーム代がどうしてもかかってくるというのがあるかと思えます。そういうことが課題かなと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

本件の登録が3件ということと、あと課題としては、リフォーム代がかかるということになかなかそれに結びつかないということで、今、御答弁いただきましたけれども、ここに私もこれ何とかできないだろうかと常日ごろ思っています、本当に吉田でも、あそこのトンネルのそばの東吉田地区でも結構トンネルできたことによって移転してきれいなおうちがたくさんあって、そこでも本当に、あっ、これはもったいないなと思うほどでも空き家になっているところがあるんですよ。

そこで、調べてみましたら、宮崎県の綾町というところで、こちらが空き家再生事業のことについて載っていました。そこが空き家再生事業として平成23年度より、人口7,300人のところの町なんですけれども、市長も御存じかと思いますが、10年間人口減がないということなんです。というのは、5年間で22件、入居者が30代から40代ということで、これはリフォーム代の上限を250万円として、それを市がちょっと建てかえた分として、それを家賃としてもらう、いただくということで、貸し主はその間、5年間は固定資産をいただかない、免税ですね、そして、これにも交付金が45%出るそうです。ここにあるんですけれども、まず、行政が金額を建てかえ代に充てて、最終的には手出しがゼロということになるそうです。そういう制度があるということなんですけれども、これは例えば、上限が250万円ですので、そんなに改修しなくてよかったら、百何万円とか、たら、それを家賃に換算して、例えば、返済費を含んで、一、二万円の家賃でそこを借りられる。貸し手も古くなるよりも

誰かに使っていただきたいという思いで、そこでもう今まで22件の入居者がおられて、そこに30代、40代のIターン、Uターンの方が8割、9割おられて、大体その担当者の方にお聞きしたところ、平均3万円から3万5,000円、でも、交付金が45%あって、そのうち打ち合わせを二、三回されるそうですけれども、そのおかげで結構10年間人口減がないということでお伺いしています。

そういう方法もあるということで、なかなかリフォーム代が大変ということですが、嬉野市も今後空き家がどんどんふえていくと思いますけれども、この対策、担当課としてはどう思われますか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

空き家につきましては、恐らくもう今後、全国的に問題が非常に大きな問題になっていくというのは当然予想しておりますけれども、その中で空き家対策、各自治体が知恵を絞って、先ほど議員のほうから紹介ありました綾町もそういうリフォームの再生あたりを出しているところでございます。

嬉野市におきましても、今回、総合戦略の中でもうたっておりますけど、空き家対策、積極的に進めていきますけれども、1つ問題になるのが、空き家のリフォームにつきましては、個人の資産価値を高めるものにもつながると一方ではございますので、そのあたり十分見きわめて、慎重に今後検討していきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

リフォームをすることによって資産価値をと、今、御答弁がありましたけれども、こちらの綾町では、5年間貸し出して、継続しても大体5年に、23年度から大体5年を今後迎えられるそうですけれども、その後は持ち主さんにお返しするというので、後は、例えば、民間の不動産屋さんとか、それに移行して、今度は持ち主さんが家賃をいただくという形になるそうです。ということもあるということで、まず、5年間ということを決めて、その間にそのリフォーム代を家賃として行政がいただいて、だから、手出しはゼロ、建てかえ代は要りませんが、手出しはゼロということでした。こういうことに対して市長は今どうお思いますか、今のこと。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

うちも実際空き家等の御紹介をして入っていただいたという方もいらっしゃるわけですので、この空き家の紹介につきましては、民間の方の御協力もいただきながらやっていければと思っております。

ただ、今の制度については、ぜひ勉強もさせていただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

今後、空き家対策、本当に一番の問題になってくるかと思えますけれども、その中に、また、必要な存在が地域の方の、例えば、ここに空き家があるよとか、仲介に入ってくれる人がおられたら、また、空き家支援員みたいな感じで、例えば、行政嘱託員さんとか、民生委員さんとか、そういうコミュニティ単位で地区地区にお世話してくださる人がいれば、ちょっと空き家になったんだけどいう相談できる場所、真っすぐ行政と相対じゃなくて、間にそういう相談できる、そういう方の存在も今から必要になってくるかと思えます。ですので、この制度、本当にいい制度だなと思えますので、ぜひ検討していただきたいと思えます。

最後になりましたけれども、今回、いろいろ対話集会とか、市民のニーズを本当に受けとめてほしいという御意見を言いましたけれども、これまでいろいろの政策に向けて本当に行政の方頑張っていたと思っていますけれども、市民から見れば、何かなかなか形に見えないので不安だという声を結構いただきますので、今後、形に見えるもの、小さいことからでもいいですので、市民の方のお声を聞いていただいて、改善できるものから一つずつ改善していただければ、本当に住んでよかったと思ってもらえるし、市民の方の声が届けば、あっ、自分も政治に参加しているんだと思っただけだと思いますので、これから本当に地方創生の鍵は地域力と言われますので、そこを大事にさせていただいて、もっともっと市民のお声を聞いていただきたいなと思えます。

そして、高齢化が早い本市では、高齢者を支えてくれる若者が一人でも多く嬉野市に住んでもらえるような新しい発想と取り組みを期待したいと思います。

ある研修で私が講師の方から聞いた言葉では、第一に問うべきことは、いろんな施策を出していただきますけれども、どれだけ真剣に考えているかということが大事だということを知ってまいりました。本当にどれだけ市民の方、行政の方、議会がそれぞれの立場でふるさとの価値を知って、気持ちを一つにしてまちづくりに取り組んだ自治体がこれから生き残る自治体だと思います。そのためにも市民との対話をぜひ大切にさせていただきたいということ

を強くお伝えして、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（田口好秋君）

これで増田朝子議員の一般質問を終わります。

引き続き一般質問の議事を続けます。

2番宮崎良平議員の発言を許します。宮崎良平議員。

○2番（宮崎良平君）

皆様おはようございます。議席番号2番、宮崎良平でございます。傍聴席の皆様におかれましては、師走のお忙しい中、傍聴いただきまことにありがとうございます。

さて、本年もあとわずかになりました。市民の皆様、また市長初め職員の皆様には、嬉野市発展のため、安心・安全のまちづくりのため御尽力いただいていることに感謝するとともに、本日は私自身のことし最後の一般質問ということで、初心に戻りまして、また全力でぶつかってまいりたいと思いますので、どうか皆様よろしく願います。

それでは、議長のお許しをいただきましたので、一般質問に入らせていただきます。

12月4日付の佐賀新聞において、嬉野高校観光・流通系列の3年生5人が国家資格である国内旅行業務取扱管理者の資格を取得されました。観光立市である我が市においてすごく喜ばしいことであり、まさに快挙であります。こういった優秀な若者が将来我が市の観光産業において活躍していただけるように願い、関連しまして、まずは観光問題について質問をさせていただきます。

まずは、これは担当課となると文化・スポーツ振興課の所管となりますが、観光の誘客も含めた質問となりますので、御了承ください。

まずは2020年東京オリンピック・パラリンピック合宿誘致活動ですが、全国各地さまざまな動きがある中で、我が市の現在の進捗状況についてお伺いします。

再質問及び残りの質問事項においては質問者席よりさせていただきます。よろしく願います。

○議長（田口好秋君）

ただいまの質問に対して答弁を求めます。市長。

○市長（谷口太一郎君）

宮崎良平議員のお尋ねについてお答え申し上げます。

お尋ねにつきましては、観光問題についてということで、まず、オリンピック関係のお尋ねでございますので、お答え申し上げたいと思います。

東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプの誘致活動につきましては、佐賀県の中で初めてとなります国の代表クラスの合宿である女子野球ワールドカップオランダ代表チーム事前合宿の受け入れを契機に、佐賀県スポーツコミッションとともにさまざまな誘致活動を行っております。今年度はヨーロッパの柔道、空手関係者の視察の受け入れやベテラ

ンズ国際柔道大会の開催などを初め、東京オリンピック・パラリンピックを活用した地域活性化推進首長連合などを通じた情報収集など、2020年の本番に向け努力を重ねているところでございます。引き続き嬉野市の魅力を十分アピールしながら、各関係機関とのこれまでの連携を生かし、またいろいろな可能性を探りながらキャンプ誘致を目指し、鋭意活動をしてまいりたいと思います。その結果が本市のにぎわい活性化につなげられるよう努力を重ねてまいります。

以上で宮崎良平議員のお尋ねについてお答えとさせていただきます。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

わかりました。実績としては申し分ない実績があるかとは思いますが、ところで、市長及び担当課の方々にお尋ねしますが、現在、東京オリンピック・パラリンピックの合宿誘致データベース「Sports Camp Japan」というものが全国の自治会を主体とし、全国の自治体と参加国・地域選手団の事前キャンプの誘致のマッチングを目指すということで始まっておりますが、こちらについては御存じでしょうか。

○議長（田口好秋君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（宮崎康弘君）

お答えいたします。

現在、東京オリンピック・パラリンピックを活用した地域活性化推進首長連合というのがありまして、今回、10月1日に新潟のほうで開かれまして、うちの市長のほうも役員として名を連ねておられるところでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

これは「Sports Camp Japan」という全国自治会とはまた違うものになるんですかね。どうでしょうか。

○議長（田口好秋君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（宮崎康弘君）

お答えいたします。

各地方に呼びかけをいたしまして、賛同する自治体の首長で構成をされている団体と聞いております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

ちなみにこの「Sports Camp Japan」というものは、今、400以上の自治体が参加しております。多分これ佐賀県の知事さんたちとか、ここら辺がメインとなって進めていらっしゃると思うんですけど、この実績があつて嬉野市というものが入っていないというのがおかしいなと思いつつも今ちょっと御答弁をいただいていたんですけど、その辺のお話は市長いかがでしょう、ないんですかね。どうでしょう。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

私たちが入っているものとは組織が違うというふうに思っておりますけど。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

わかりました。ちなみにここら辺もですね、「Sports Camp Japan」というものも含めて、もう一回県のほうに確認をとっていただきまして、進めていただきたいと思いますけど、よろしいでしょうかね。

それとあと、五輪キャンプ地においては、大会組織委員会が国際企画というものに合致する施設情報というものを取りまとめて、今回でいえば、来年夏のリオデジャネイロのオリンピックの後に参加国に紹介して決定するという、毎回そうなんですけど、そういう流れになっていると思うんですね。ただこれ、合宿の規格外においてでも個別交渉ということでキャンプ誘致というのが可能になっております。

ちょっとそこで質問なんですけど、我が市で国際規格に合致する施設というもの、そういうものが検証してあるものなのかどうか、ちょっとお伺いします。

○議長（田口好秋君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（宮崎康弘君）

お答えいたします。

大会を持ってこられるような施設等については、まだはっきりとした打診はあっておりませんが、事前の合宿等については、宿泊地を利用してできるのではないかと聞いて



ております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

また、個別交渉というものの、これに関してのアプローチなどはいかがなんでしょう。

○議長（田口好秋君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（宮崎康弘君）

お答えいたします。個別の交渉というのは、うちのほうではまだやっていないという状況でございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

ちなみに福岡県はスウェーデンの選手団、千葉県山武市というところに関してはスリランカの選手団、静岡県焼津市はモンゴルのレスリングチームの事前合宿地としてもう既に内定している状況であります。静岡県の島田市においては、2020年東京オリンピック・パラリンピック合宿誘致に係る基本方針というものがこういうものです。（資料を示す）ちょっとちっちゃいんですけどね、こういうものがあるんですけど、目的、誘致の優位性、取組の方向、取組の内容から対象競技、中心対象競技、誘致活動、支援活動、それこそスケジュールまで、きっちりとこういう形で合宿誘致に係る基本方針までつくられてやっております。こういったことも含めて、現在の我が市の誘致活動が今の状況で満足であるかどうかということをも市長含め担当課にお伺いします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

最終的には、やはり県、国等を通じて情報収集する必要があると思いますので、今その入り口にたっているというふうには理解しております。ただ、県のほうといたしましても、いわゆるオリンピック・パラリンピックの誘致というものにつきましては政策の柱にも置いておられますので、当然今まで私どもが県と連携して動いてきたということにつきましては理解をいただいておりますので、そこらについてはしっかり県の情報等もいただきながら努力をしてまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（宮崎康弘君）

お答えいたします。

先ほど市長が申しましたとおり、今後、佐賀県スポーツコミッションとの連携をとりながらそういう情報の収集をして、今後進めていきたいと思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

もうたくさん自治体はかなり本気で取り組んでいる中、我が市もUD推進の市、健康都市、スポーツ合宿誘致という実績がしっかりとある中、それにあぐらをかくような状況にならないように、本当に貪欲に本気で進めていくべきだと思いますが、選んでもらえればいいかなという待ちの姿勢ではなくて、やるからには絶対招致するという、勝ち取りに行くという姿勢が重要だと思いますが、市長、最後にもう一度御答弁をお願いします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

今までの海外の選手団の誘致等につきましても、現地まで交渉に行き獲得をしてきておりますので、今御発言の点については十分理解しますので、努力をしてまいりたいと思いません。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

わかりました。市長の強い意欲もお受けしましたので、今後の活動に期待をしたいと思います。観光、地域の特産物を含めてですね、嬉野市の魅力を世界にPRできる絶好の機会でもありますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

それでは、2点目の質問に入ります。

観光における諸団体の活動状況及び予算についてということですが、現在、活動や予算状況についての検証方法というのはどういう形で行われているのか、お伺いします。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（宮崎康郎君）

お答えいたします。

観光諸団体への補助金を各種交付しております。その中で、例えば、各種祭りのイベントとか、そういうのに補助金を出している場合は、イベントの来場者数を把握しつつ検証をいたしております。

あと、観光協会あたりでの事業につきましては、観光協会とうちのほうで決算等々も出ますので、そのあたりで検証を行っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

今年度の諸団体の活動及び予算額というものの資料をいただきましたけど、これは当然のことながら、昨年の事業内容の健全性とか、また効果とかというものを勘案して上がってきたもんだと思っております。それでよろしかったでしょうかね。これを見まして、1年に一度の単発事業におきまして、先ほどの御答弁でも何となく理解はできることではあるんですけど、観光推進のためにつくられた地域開発プロジェクトというものがございしますが、当然そこから出されたいいアイデアなどで新たに別の交付金を使い事業展開していくこともありますよね。そのことでいえば、最近のことでいえば、がんばる地域交付金事業、あれを使って温泉公園の整備及び対岸に展望所、写真スポットという形で建設されましたよね。あれは地域のこういう諸団体の当然お知恵もおかりしながら、会議も開きながらやられたと思うんですけど、間違いはないでしょうか。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（宮崎康郎君）

お答えいたします。

先ほどの温泉公園の整備等につきましては、にぎわいラボというのが組織化されていて、その中でもいろんな意見をいただきながら取り組んでまいっているところでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

これに関してもそうなんですけど、地域の活性化には民間の力、民と官の力というのが大きく作用する、協力体制が作用することは重々承知しておるんですけど、要は交付金を利用

しているわけですから、きっちりとした検証と、あと、できて景観がよくなってきれいだなとかだけじゃなくて、整備した公園とか展望所などの活用という形での観光活性化につなげていくのをどうするかという今後のビジョンがそれこそ特に必要になってくると思うんですけど、そこら辺も今このプロジェクトチーム含めてやられているのかどうか、ちょっとお伺いします。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（宮崎康郎君）

お答えいたします。

先ほどのことになりますけれども、新湯広場を今度整備したりとか、温泉公園を整備いたしました。私を感じるところでございますけれども、かなり最近まち歩きも多くなったという実感をいたしますし、例えば、新湯広場にしましては、オルレコースの道順になっておりますので、そのあたりでもかなり外国の観光客の方も立ち寄っていただいているということを知っておりますので、かなりいろんな面で観光客の誘客にもつながっていることと思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

ちなみになんですけど、昨年9月でしたかな、それこそ課長のほうから御答弁があったと思うんですけど、あそこら辺の甲らというんですかね、そこら辺を含めて、決議次第、県のほうに確認をとりますとかという話、県の計画が昔あったというお話がある中で、そういうお話があったんですけど、その後なんですけど、あそこができた後、県のほうとの計画とかすり合わせとかというものができているものなのかどうか、ちょっとお伺いします。

○議長（田口好秋君）

産業建設部長。

○産業建設部長（山口健一郎君）

お答えします。

話し合いは行っております。といいますのが、杵藤土木も担当になりまして、そこと道路関係でも河川関係でも話し合いを持つ機会がありますので、その折に、今、遊歩道がとまっています、甲らを含めて整備をお願いしたいということで話をしています。それで、今年度だったと思いますけれども、測量関係は一応していただいております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

わかりました。安心しました。

その中で、実は何で聞いたかという、今、写真スポット、展望所のところがありますけど、あそここっち側の対岸の部分ですね、あそこのアクセスというのか、回んなきゃいけないというのもありながら、なかなかあそこまで行く方が少ないというお話も聞きます。その中で、要は商店街、ちょっと下のほうというんですかね、今の仮の交流センターから温泉4区あたりにかけてのあそこら辺の商店街の方々からなんですけど、観光スポット的なものがあそこら辺も少ない。お祭りとかでもどうしても何となく外されているような気がするというお話をちょこちょこ伺いますので、そういう方々を含めての、今ちょうどあそこに写真スポット等できていますので、何かしらそこら辺、まち歩きも絡めて、もうちょっと下のほうまでできないかなという。そういうお客様が流れるシステムづくりというものを、ちょっとお願いみたいな形になりますけど、観光課及び諸団体の方々に重要な協議事項としてお伝えしていただきたいと思うんですけど、観光課長よろしくお願いします。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（宮崎康郎君）

お答えいたします。

議員がおっしゃられるように、私もそういう声をお聞きいたしました。せっかく新湯広場とか、その目的としては、下流のあたりににぎわいを目的にするということをつくったわけですけれども、なかなかまだそういうにぎわいまでいっておりませんので、そういうところを今から勉強して、関係各団体と協議していきたいと思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

市長、同じような質問になるんですけど、お答えいただいてよろしいでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。商店街の全体的な活性化ということでのお話だと思います。もちろん商店街組合の方、また商工会の方もいらっしゃいますので、会議等も御一緒しますので、こういうお話がありましたということはずいぶんお伝えをしていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

ありがとうございます。では、よろしく願いいたします。

では、3点目の質問に移らせていただきます。

ちょっとアバウトな感じになるんですけど、嬉野市が目指す観光の未来像についてという質問になります。海外からの客数増加、旅行形態の変化、新幹線開通、それによる駅前開発、またはインフラ整備などで今後大きく変化していくであろう中で、市長が目指す、また理想とする嬉野の未来、特に観光の未来像について伺いいたします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

嬉野市が目指す観光の未来像ということでございますけれども、本市が目指す観光の未来像につきましては、嬉野市の総合計画をつくる際に協議をいたしまして、基本方針として、いわゆるもてなしの心で結ぶ交流のまちということで、この嬉野市のおもてなしでそれぞれ国内、国外のお客様が集っていただくというのが嬉野市の観光の未来像だというふうに考えております。

その中で、特に今回、また、まち・ひと・しごとの総合戦略の中で、いわゆる観光地として選ばれると、また観光地として愛される観光地、そういう嬉野を目指していきたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

アバウトな質問にお困りになられたでょうが、お答えいただきありがとうございます。

市長、ちょっとお尋ねですが、市長選の折に、またふだんから、高度な医療を提供し、温泉文化都市として世界的に有名なドイツのバーデン・バーデンのような長期滞在型の観光や町並みを目指すということで、夢のある温泉地にしたいということを目ざろからおっしゃっていますけど、これ今も変わりはないでしょうか、伺いします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

私自身が目指しているのはそういう観光地でございますので、いわゆるいろんな方々が嬉野に集っていただくということで、すぐにはできませんので、障がいをお持ちの方もお持ちでない方も、まずは嬉野に集っていただくというふうな施策をとっていききたいということで今いろんなものを取り入れておるところでございます、それにつきましては観光業の方々も御理解いただいて、この前は新聞にも出ておりましたけれども、手話でお迎えをする勉強をしていただいたり、いろんなことで新しい取り組みが広がってきているというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

ちなみにちょっといじわるな質問になるかと思うんですけど、現在、市長の目指す未来像において、市長なりに何割ぐらい達成されているかと思えますでしょうか、お伺いします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

いわゆる施設のことにつきましては、さまざまに見方はあると思えますけど、観光業の方々のお考えの中で、バリアフリーとか、ユニバーサルデザインとか、おもてなしとか、そういうものが中心になってきたということを考えますと、恐らく半分以上は意識的にはなっていないんじゃないかなというふうに思っております。ただ、今回、私どもが目指しております新幹線の駅前等に医療センターが移ってくるわけでございますので、そういう中でまのまちづくりが変わっていけば、やはり滞在型の温泉地ということが現実のものになっていくんじゃないかなというふうに期待をしているところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

正直なところ、今の時代、あらゆるコンテンツというものです、流れや旅行形態の変化により本当に新しい事業コンテンツをふやしていくということも、今、市長結構やられていると思うんですけどね、こういう事業コンテンツをふやしていくということもわからないわけではないんですが、誘客とか交流人口をふやすために、また国内、または世界の中で特化したまちというのをつくり上げなければ、誘客とか交流人口というのは、未来の子どもたちのためですけど、今後ないと思うんですね。そういったものをつくり上げることが一番大事

だと思ひ、温泉とか、お茶とか、塩田津とか、農業とか、自然とか、こういったものはある程度どこの地域にもあるというか、ほかの地域より恵まれているとは思いますが、コンテンツとしてはちっちゃい——ちっちゃいという言い方はあれですけど、コンテンツとして十分にあるとは思いますが。ただ、この中でいまいちはっきりと見えてこないものですね。大きな芯になる、明確性のある柱というものが何となくまちのビジョンとして見えてこないと思いますが、市長、ちょっと失礼かと思いますが、市長が思う嬉野市の芯になる、明確性のある、外から仮に嬉野市ってどんなまちという形で言われたときに、今後見据えても含めてですけど、明確性のあるイメージの浮かびやすいというか、そういった大きな柱というものが何なのかというものをちょっとお聞かせいただきたいと思いますけど、よろしく願ひします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

以前から申し上げておりますとおり、やはり嬉野市のそれぞれの天恵の資源を有効に生かした形で考えていかなければならないと思ひますし、それをしないと地に足がついていないというふうな議論になっていくと思ひますので、私たちは以前からお話しておりますように、やはり温泉と医療と福祉を確立させたまちであると、それが観光資源として有効に評価されると、そういうまちでなければならないと思ひしておりますので、今までもそういう政策をやってまいりました。ですから、嬉野に行けば、いわゆる長期滞在型の医療が受けられて、そして、温泉地としてしっかりとしたおもてなしがいただけるというふうな温泉地であるべきだというふうにご考慮いただいておりますので、そういう努力をしていきたいと思ひます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

ありがとうございます。ちょっとここですみません、議長、変則的にはなるんですが、次の企業誘致の質問もあわせた形で質問させていただいてよろしいでしょうか。

○議長（田口好秋君）

はい、どうぞ。

○2番（宮崎良平君）続

では、平成27年度の現在までの進捗状況と今後の対策と計画をお尋ねいたします。

○議長（田口好秋君）



企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

企業誘致につきましては、本市におきまして、事務系のオフィス誘致に今積極的に動いているところでございます。国の流れといたしましても、大震災以降、事業継続計画、BCPという考え方でそういう動きもありますので、これらの動きをですね、国のほうの動きも十分キャッチいたしまして、県と一緒に動いていきたいと考えておるところでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

先日、山口政人議員の一般質問でもありましたし、本日、増田議員の質問でもありましたし、ある程度資料もいただいておりますので、理解はできております。

ちなみにちょっと課長にお伺いしますけど、これまで訪問されて、ぐっとくるような手応えというものはあったのでしょうか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

一番ぐっとくる手応えといいますと新幹線の開業ですね、これが数年後に実現するわけでございますけれども、非常に嬉野はポテンシャルの高い地域だということを企業さんのほうからは直に言葉としていただきましたので、それが一番私としては大きく感じているところでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

多分いろんな検証もされて、そうやって新幹線のお話も出てくるように、実際に私も嬉野市というのはポテンシャルの高い地域だと思っておりますが、ですが、実際のところ、誘致できていないという状況がありますよね。私も微力ながらなんですけど、いろんな知人に対して嬉野市のPR含めて企業誘致等のお話をするのが多々あるんですが、その際よく言われることがあるんですね。温泉やお茶とかというイメージというのは昔からあるイメージなんですけど、そういうものは湧くんだけど、このまちは正直どういう方向で今後進んでいくのか、また、今、企業としてのメリットというものがインフラ整備が整っていると、土

地代が安いことよりも、ブランド力を高めることとか、情報発信する際の企業イメージと地域イメージとのマッチングというものを最も重要視しているというお話をよく聞くんです。これについて、市長、どういう御感想をお持ちでしょうか、よろしくお願いします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答えを申し上げます。

おっしゃるとおりで、私どももいろんな機会にそういう話を聞きますし、またそういう説明をしてきたところでもございまして、今、担当課長申し上げましたように、そういう意味では非常に嬉野はいろんな企業の方から高く評価をいただいているというふうに思っておるところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

結局、変則的な質問の流れの中で何を言いたかったかということ、嬉野市の観光の未来像において現在のコンテンツを集約して、イメージ的に本当に外に向けてわかりやすい太い柱というものをもっともっと世界中に発信して、また誘致活動においても効率的に進めて、絞り込んでいくことというのが必要なんじゃないかなと思うんです。先ほども市長ちょっと言われましたけど、温泉、医療、福祉という、こういうことでもし仮に本当に進めていくつもりであれば、もっともっと外に向けて発信できることがあるんじゃないかと思うんですね。市民含めてそこに相互理解があれば、そこに特化した企業の誘致という絞り込みができないものなのかどうか。そうすればお互いにウイン・ウインの関係を持った健全な企業誘致というのできるんじゃないかと思うんですけど、市長、それに関していかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

もちろん市民の方は嬉野市内にお住みでございますので、変化というものにつきましては徐々に御理解をいただくということがベストだろうというふうに思っていますので、時間はかかりますけれども、御理解いただきながら市全体の方向性を進めてまいりたいと思っております。ただ、企業の方々あたりは、私どもがお伺いして説明することにつきましては御理解はいただいておりますので、そこらについてはこれまでもこの嬉野市については決定はいたしておりませんが、評価はいただいておりますので、そういう方向で進めて

まいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

何となくですけど、市長が目指されている柱のキーワードというものをここで今おっしゃったように市民の方々も理解していただきながら、まずは外に対して、特にちょっと課長にお伺いしますが、武器として、うちのまちこういうまちなんですよという、仮に福祉、健康、こういったものを温泉のときはコンテンツの一つだったと思うんですけど、その一つの柱、市の柱というものができてくれば、要は企業としても投資をしやすい、進出しやすいというお話をよく聞きます。そういったことに関して、企業を訪問されている中でそういうお話等を含めて出てこないかどうか、ちょっとお伺いします。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えいたします。

昨年、私がある企業に訪問をした際に、嬉野市の売りは何だという御質問を受けました。その中で、温泉とか豊かな自然がありますとか、決まり切った文言を使って説明をしましたがけれども、企業さんはそうじゃないと。嬉野市の本当の売りをしっかりと企業側に伝えないと企業は心動かないよということをおっしゃられました。そういうことでありまして、嬉野の売りを本当に言葉として何を表現していいのか、企業の魂を揺さぶるといいますか、そういうものをまだちょっと見つけられていないんですけれども、そういうものを今ちょっと探しているところではございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

今、課長のほうからお話いただきましたけど、多分これは大きな柱として市長が決断するという事ではないかと思っております。その大きな柱という形で、市長、これまでの提案も含めた形で、もうちょうど合併10周年というこういう時期を迎えて、今、大きな転換期でありまして、本当に今、大きなかじを切るときだと思うんですね。そういう決断を迫られているときだと思うんですけど、市長、今の先ほどの御答弁を聞いて、もう一度最後に決意も含めてですけど、お聞かせいただきたいと思いますが、よろしく申し上げます。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答えを申し上げます。

この10年ですね、いろんな方の御協力をいただきながら、まずは長寿ということで努力をしてきたわけでごさいます、3年前におかげさまで男女ともほぼ日本一ということになったわけでごさいます、今後どうするのかということでごさいますけれども、これからやはり全ての市民の方が健康で長生きしていただく嬉野市をつくるというのが大きな柱になっております。そういうところから観光関係の方にも御協力をいただいて、健康保養ということを進めてまいりたいと思っておりますので、この嬉野にいわゆる企業が進出していただければ、働いていただく職員の方々も私どもの健康保養というシステムの中でしっかりと、安心して仕事ができると、そういうようなことをぜひ売りにして行って、今までの福祉、医療というものをしっかり市の核として努力をしていきたいと思っておりますのでごさいます。

以上でごさいます。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

わかりました。先ほども言いましたけど、合併10周年を迎え、本当に大きな大きな転換期であることと思います。その中で、本当に市長の決断とかじ取りというものに大きな希望を託しまして、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（田口好秋君）

これで宮崎良平議員の一般質問を終わります。

一般質問の議事の途中ですが、ここで13時まで休憩といたします。

午前0時5分 休憩

午後1時 再開

○議長（田口好秋君）

それでは、休憩前に引き続き一般質問の議事を続けます。

1番生田健児議員の発言を許します。生田健児議員。

○1番（生田健児君）

議席番号1番、生田健児でごさいます。議長の許可が出ましたので、通告書に従い一般質問をいたします。

今回は大きく4点について質問いたします。

まず第1点、アパートの住環境について、湯けむり広場について、社会文化会館リバティについて、住民票発行等の機械化についてであります。

それでは、最初の質問に移らせていただきます。

アパートの住環境についてであります。

嬉野市には次々と新しいアパートが建設されております。これからもアパート住人はふえ続けることが予想されます。また、嬉野市の人口を少しでもふやすためには、他自治体や外国人などの定住者をふやし、また、そのよりよい住環境を構築していくことが大切だと思います。アパートの住環境の現在とこれからについて伺います。

1番、ごみ出しルールが地区ごとに違うようだがなぜなのか。改善されることはないのか。

こちらにつきましては、具体的に言いますと、アパートに設置されております金属の網のごみ捨て場ですね、そちらにアパート住民はごみを捨てるわけですが、いわゆる一般的な燃えるごみですね、そちらは問題なく回収されている。しかし、缶ごみなど、そちらが市のルールどおりに捨てても回収される地区とそうでない地区があるという声をよく聞きます。そういったことです。そのことについて伺います。

残りの質問につきましては、質問席より行います。

**○議長（田口好秋君）**

ただいまの質問に対して答弁を求めます。市長。

**○市長（谷口太一郎君）**

生田健児議員のお尋ねについてお答え申し上げます。

お尋ねにつきましては、アパートの住環境についてということで、まず1点目が、ごみ出しルールが地区ごとに違うようだがなぜなのかと。改善されることはないのかということですが、ごみの分け方、出し方につきましては、嬉野市一般廃棄物処理基本計画及び実施計画、いわゆる一般廃棄物処理計画に基づいて定めたルールでございまして、このルールが地区によって異なることはございません。ごみの収集についても、収集日は地区によって違いはありますが、指定日に計画的に収集を行っておるところでございます。

以上で生田健児議員のお尋ねについてお答えとさせていただきます。

**○議長（田口好秋君）**

生田議員。

**○1番（生田健児君）**

先ほどの答弁でごみ出しルールは市内統一したルールで地区ごとの違いはないという答弁でしたが、実際、住民や大家さんやオーナーさんなどの声を伺いますと、ルールどおりにきちんと分別しているけれども、持っていけないなどの声を聞きます。また、そういった場合、大家さんが自主的に回収されまして、市の収集場所ですね、そちらに持っていかれたりなどの労力がかかっていらっしゃるそうです。そのために、先ほど言いましたけれども、きちんと持っていってくれるところとそうでないところの、そういった面での不満がかなりあるということをよく伺います。もし持っていけないごみ等につきましてはどう

対応したらよろしいでしょうか。

○議長（田口好秋君）

環境水道課長。

○環境水道課長（副島昌彦君）

お答えいたします。

今言われているごみが収集されていないときがあるということなんですけど、ほとんどが収集日の勘違いというのもよく聞きます。燃えるごみとか金属のごみとかは収集日が違いますので、そのとき一緒に出されても、収集する日、曜日が決まった分しかやっぱり持っていけないというところもあります。ただ、収集日、仮にうちのほうのミスで持っていっていないということでありましたら、連絡をいただければ、うちで確認して職員でももちろん収集いたします。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

そうしましたら、ルールは特に地域ごとには違わない、また、正規に投棄されたごみでしたら、もし持っていない場合はまた回収に来てもらえるということで了解いたしました。ただ、大家さんやオーナーさんの中には、地区ごとにルールが違うんじゃないかと思っていらっしゃる方がかなりいらっしゃるような印象を受けるんです。

そこで、そういった大家さんなり、また不動産屋さんにもう一度、現状のごみ出しはルールは違わなくて、市内全部統一されたルールでちゃんと持っていっていますということをもた再度直接伺ってでも何か周知されたいかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

環境水道課長。

○環境水道課長（副島昌彦君）

お答えいたします。

収集日の把握というか、周知という意味では、私たちのほうも努力はしなければならぬとは思っています。それで、そういうふうな意味で、お知らせ等で周知を図りたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

関連して質問させていただきます。市のごみ出しルールによりますと、ペットボトル、紙

類、布類ですね、こちらが地区の集団回収場所に持っていくようにという決まりになっているようですが、この地区の集団回収場所というのは、いわゆる班のごみ回収場所という認識でよろしいでしょうか。

○議長（田口好秋君）

環境水道課長。

○環境水道課長（副島昌彦君）

お答えいたします。

集積所というのが各行政区のほうに1カ所から3カ所ございます。そこに持って行っていただければいいということをお願いしたいと思います。

以上です。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

そういった地区の集団回収場所というのは、嬉野市民の方であればどちらに持っていてもよろしいのでしょうか。

○議長（田口好秋君）

環境水道課長。

○環境水道課長（副島昌彦君）

集団回収場所をつくる時にその費用がかかっています。それで、普通は多分、今寺地区なら今寺地区ということで1カ所とかあるときはそこにつくる費用がかかっている、ですから、今寺の区民の方であれば多分問題ないでしょうけど、引っ越し等をしてこられて、そこを利用したいということであれば、行政区のほうに御相談をなさって、許可というか、そういう意味でのお話をされてからそこに運ばれるのがいいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

アパート住民の方はよそから来られた方も大勢いらっしゃると思いますが、そういった方々はいわゆる班に入っていない方も当然多くいらっしゃいます。そういった方々のさっき言ったごみ回収場所への投棄といいますか、そういったところについてはどうお考えでしょうか。

○議長（田口好秋君）

環境水道課長。

○環境水道課長（副島昌彦君）

そういうふうな集積所に関しては、私が先ほど言ったように、区の施設というふうな感覚という失礼ですけど、あると思いますので、アパートに入られて区のほうに入っていない方が勝手には出すことはできないんじゃないかな。先ほど言いますように、区長さんの許可をとられて、区長さんがいいですよということであれば問題はないというふうに思います。

以上です。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

そうしましたら、嬉野市としては、班に入っていない方は班、いわゆる地区の収集場所には捨てないでくださいということによろしいでしょうか。

○議長（田口好秋君）

環境水道課長。

○環境水道課長（副島昌彦君）

アパートにそれぞれごみステーションというのは申請されたら、うちの回収計画でオーケーということであれば、アパートの前に回収箱を置いたごみはもちろん回収いたします。今、議員御発言の件は、集積所に持っていくペットボトルとか紙とか布ということだと思えます。ですから、私のこの立場といたしましては、今言う集積所の利用というのはやっぱりその許可が必要だという見解でございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

アパートに住まれる方は多くが恐らくは班に入っていらっしゃらないか、または共益費等で班費として払われていて、班費は払っているけれども、自分の認識としては班に入っている認識がない方は大勢いらっしゃると思います。また、都市部ですね、都会のほうから来られた方、そもそも班とかそういった認識がわからない方も当然多くいらっしゃると思いますが、嬉野市の今後のそういったあり方としてはどういうお考えでしょうか、市長。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

コミュニティを推進している市でもございますので、ぜひアパートの方もその地区に地区員として御加入いただければというふうに願っておるところでございます。

以上でございます。



○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

わかりました。そうしましたら、すみません、次の質問に移らせていただきます。

女性のひとり暮らしも多いと思うが、ごみ袋にフルネーム記入の場合、ストーカー被害や変質者にごみが漁られる危険がある。アパート名と部屋番号だけで対応できるようなにはできないかという質問であります。

○議長（田口好秋君）

環境水道課長。

○環境水道課長（副島昌彦君）

お答えいたします。

自分の出すごみということで、そのごみに対しても責任を持ってもらいたいという意味で記名式をお願いしております。記名をすることでマナーですね、ごみ出しのマナーとか、それから、ほかのところからの持ち込み等を防ぐということでそのようなお願いをしている次第です。ただ、今言われるように、女性、ストーカーですかね、そういうのもマスコミ関係でも十分聞いております。ただ、現時点で嬉野市では今記名をお願いしている次第で、例えば、その対策ということでは、ごみの中身が見えないように紙で巻く、新聞紙で巻くとか、それから収集車が来る時間のある程度把握して直前に出すとか、御苦勞をかけますけど、そういうふうなお願いで対応していただけないかと思っています。

以上です。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

わかりました。市長といたしましては、女性のストーカー被害や変質者被害ですね、そういったものの対策といたしましては、市としてはどういうふうに対応していこうとお考えでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

ごみの袋に名前を書くということにつきましては、以前は書いていなかったわけですが、それこそ旧町民の方からいろんな意見がありまして、ごみの責任をはっきりさせるという意味で名前を記入するよという提案があってごみ袋に名前を入れるという方法を今採用した経緯を覚えておるところでございまして、そういう意味では、どちらがいの

かなということでしょうけれども、しかし、犯罪とか、非常に厳しい状態が考えられるということですので、何かいい方法がないのか、これからちょっと検討はしてみたいと思います。

確かに以前は名前書いておりませんでした。しかしながら、集積所が汚れるとかいろんなことがあって、住民の方から名前を書くようにという御提案があって取り入れた制度でございます。しばらく時間もたっておりますので、研究をしてみたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

安心して女性のひとり暮らしができる嬉野市にしていきたいと思います。

続きまして、3番目の質問です。水道開栓の手続は、現在、水道給水開始申込書の提出と同時に開栓手数料の納付が必要となっているが、1回目の水道料に開栓手数料を加算して支払うようにはできないかという質問であります。

○議長（田口好秋君）

環境水道課長。

○環境水道課長（副島昌彦君）

お答え申し上げます。

現在のシステムでは、そういうふうに同時に水道料金の使用料に加えて納付書の作成というのはできません。まだ今現在は、環境水道課の窓口に来られて開栓申込書を出された時点で手数料をいただくというふうにしております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

わかりました。できないということで了解いたしました。

すみませんけれども、1番の質問にもう一度戻らせていただきますけれども、アパートに住まれている方で、例えば、1年や2年、仕事の都合で住まれている方などは恐らく班等には入られないと思いますけれども、そういった方々が先ほど言いましたペットボトル、紙類ですね、段ボール等、布類ですね、捨てられる場合の場所というのは、恐らく嬉野中継場に持っていけば大丈夫だと思いますけれども、あちらの場所を御存じない方も結構いらっしゃると思いますので、いつか機会があったら何らかの方法で告知していただくようお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

環境水道課長。

○環境水道課長（副島昌彦君）

お答えいたします。

先ほどもごみの分別収集についてもうちのほうで周知を努力しなければならないということでございますので、今の中継基地の位置につきましても、それも含めてお知らせ等で努力したいと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

嬉野市のこれからの人口増ですね、また、少しでも減らさないためには住みよい嬉野市が必要だと思いますので、その辺もよろしくお願いいたします。

次の質問に移らせていただきます。

続きまして、湯けむり広場についてであります。

市民からの評判が非常に悪いように感じますが、これからの利活用についての考えを伺います。私がよく市民の方から湯けむり広場について意見をもらうときは、そもそも何なのかわからないという意見が一番よく聞かれます。何の施設かわからない。そして、2番目に、無駄じゃないかという意見もよく聞かれます。また、人によっては、隣の温泉施設の一部だと認識されている方も結構いらっしゃるように思います。

まず最初に、湯けむり広場をつくるに至った経緯とその目的について伺いたいと思っております。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答えを申し上げます。

湯けむり広場をつくった経緯については、以前の議会でもお答えしたとおりでございます。以前から嬉野については、温泉地ではあるけれども、いわゆる温泉、湯けむりを実際目にする場所が非常に少ないというふうなことでございました。以前のお話でございますけど、以前は本通りですね、今の商店街の通りの中に少し仕掛けをされて、旅館の壁面あたりで温泉が感じられたというようなこともありましたけど、そういう旅館がなくなりましたので、今は1軒か2軒ですね、旅館の庭の中でしているところがございますけど、なかなか外から見えないということで、そういうものがないかというのは観光関係の方からいろんな意見をいただいていたわけでございます。

そういう中で、実は医療センターの前の交差点の角地につきましても、以前、湯野田区のほうから非常に交通事故が多発しているということで改善の要望が出ておったわけでござい

まして、ちょうどそのときにあそこに銀行の寮がありまして、閉鎖されるというふうなこともございましたので、交差点整備という中であの土地を購入させていただいたところでもございまして、今のところ、交差点につきましては、4カ所のうち2カ所ですね、この市の所有というふうになったところでもございまして、あと2カ所はまだ個人さんの所有でございますので、今後お願いをしていかなければならないと思っておりますけれども、そういう整備についても交差点改良という事業の中で行った経緯もございまして、そういう中で、温泉情緒を出したいということで、湯煙を出す方法がないのかということで今現在のシステムを導入いたしまして行っておるところでございます。以前から湯煙については、非常に湯煙がわかりにくいと、見えにくいというふうなことでございまして、いろいろ調整はいたしておりますけれども、冬場はいいわけでもございますけど、夏場がなかなかわかりにくいというふうな御意見はいただいておりますので、改良する方法がないのか、これからまた研究をしてまいりたいと思っておるところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

つくるに至った経緯の中で、以前どこかの答弁であったように記憶しているんですけども、合併時の約束として何かつくるみたいな話があったように思うんですけど、どうでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

合併の約束ということはなかったと思います。以前からあの土地を購入した段階で、以前から要望がありました湯煙の情緒を感じられる、そういう施設が嬉野にはないということから場所がですね、ちょうどあの角が、観光関係の方にお聞きしますと、観光バスが高速のインターから入ってきまして、特に夕方あたりは観光バスがあつた場所で停車すると、一番多いということもございましたので、観光のお客様に見ていただくということであそこに設置をさせていただいたという経緯はございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

資料といたしまして年間維持費の数字の資料をいただきましたけれども、年間大体平均し

て300万円のランニングコストがかかっております。こちらのランニングコストについてなんですけれども、そもそも湯けむり広場の仕組みといたしますか、こういった構成になっているのでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答えを申し上げます。

湯けむり広場のシステムでございますけれども、ランニングコストにつきましては、ほとんどいわゆる熱源を温めておりますので、その燃料代ということになります。あそこに嬉野市の源泉があるわけでございますけれども、源泉につきましては揚湯量が限られておりますので、加熱をしながら湯煙を出しているということでございまして、その加熱をするシステムに対する費用がかかるということでございまして、くみ上げた温泉を加熱して湯煙を出しているというシステムでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

温泉を沸かして煙を出しているということで認識しましたけれども、先ほど最初のころ言いましたけれども、市民の方からは、やはりちょっと何かよくわからないという施設といたしますか、場所といたしまして、結局、あその場所の中で、例えば、子どもが遊んだりとかはしちゃだめなんですかね。あくまで休憩場所といたしますか、ベンチに座ってないしは車の車窓から煙を見て情緒を感じるのがメインの目的なんでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

湯けむり広場につきましては、原則は市民が利用していただく広場でございますので、子どもさんが来られても結構だというふうに思っておりますけれども、事故防止ということもございまして、そこらについては十分注意をしていただければというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

また、これから何らかのわかりやすい活用をしていかないと、やはり市民の方々からは無駄だや、よくわからない等の不満がこれからもずっと出続けるとは思いますが、何か具体的に市民の方々も納得していただけるような利用方法等は考えていらっしゃるのでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

いわゆる最初から御要望等ございました観光関係の方からはいろんな御意見をいただかないわけでございますので、嬉野の情緒を感じていただく湯煙については、いわゆるコストをどのように落としていくのかというのは先ほど御指摘もありましたように、これから勉強もしてまいりたいと思いますし、また新しいシステムがないのか、もう少し研究をしてまいりたいと思っております。

また、一般の市民の方につきましては、一般市民は使えないというふうな誤解があるということでございますので、そこらについてはいろんな広報手段を通じて、湯けむり広場の御利用については御自由にできるということはお伝えをしてまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

そうすれば市民側から何らかの申請があれば、そちらのスペースを貸し出すことも可能ということでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答えを申し上げます。

施設の中については、先ほど言いましたように、危険防止で厳しい面もありますけど、あとは何か使ってみたいというようなことは申請をいただければ、許可の基準に合えば使えると思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

市民の方々にもあのスペースを使って何らかの催しなり、ちょっとしたイベントなりやっ

てみたいという方もいらっしゃると思いますので、ぜひ要望があれば貸し出すことは可能であるということを広く周知していただきたいと思います。

また、市としても、やはり市民の方からもずっとネガティブな話しか聞かないので、少しでもいい活用があるようでしたら活用していただきたいと思います。

続きまして、社会文化会館リバティについての質問に移らせていただきます。

こちらですね、1番と2番の質問をちょっと前後させていただいて、最初にリバティのランニングコストについての質問をさせていただきます。

平成27年度の社会文化会館リバティが現在1,323万8,000円、4月から11月までの8カ月分がかかっておりますが、通年ですと、おおよそ幾らぐらいになると予想されておりますか。

○議長（田口好秋君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（宮崎康弘君）

お答えいたします。

年間を通しての事業等が全部終了しておりませんので、まだ全体的な数字は把握していないところでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

予想の数字もないということでしょうか。

○議長（田口好秋君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（宮崎康弘君）

予想は立ちますが、今、手元にちょっと資料等ございませんが、予算としましては3,200万円程度の予定で計画をしているところでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

そういったしましたら、これからも毎年リバティにはランニングコストとして3,200万円程度はかかっていくという認識でよろしいでしょうか。

○議長（田口好秋君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（宮崎康弘君）

お答えいたします。

その利用の頻度によりまして、若干違いは出ると思いますが、大体3,200万円前後の計画だと認識しております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

光熱費のところを見ますと、電気代がおおよそ4月から11月までで440万円ほどかかっておりますけれども、リバティにはソーラーパネルが設置されていると思っておりますけれども、そちらのソーラーパネルは幾ら分電気代を賄っているのでしょうか。

○議長（田口好秋君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（宮崎康弘君）

お答えいたします。

ソーラーパネルの設置は確かにしてありますが、その辺の比較等のデータを持ち合わせておりませんので、後で提出したいと思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

もしソーラーパネルが有効に電気代を補ってくれているのであれば、将来的にはソーラーパネルの増設等も考えていっていいんじゃないかと思っております。

また、資料を見させていただきましたけれども、恐らく削るといいますかね、そういうことが結構難しい施設だと思っておりますので、年間3,200万円かかってしまうんだろうとは思いますが、なるべく少しでも抑えるように努力していただきたいと思っております。

また、1番の質問に移らさせていただきます。

市制10周年を記念いたしまして、さまざまなイベントが行われましたが、市としての手応えはどうか、また、これからのリバティの活用について伺いたいと思っております。

健康のイベントにつきましては、辻議員、増田議員からお話がありましたので、ここでは省略させていただきますけれども、10周年記念でリバフェスや真知亜と仲間たちですか、それと、この間のクリスマスコンサート等あったと思うんですけれども、そちらの来場者数は予想された数字と比較いたしましてどうでしたか。

○議長（田口好秋君）

文化・スポーツ振興課長。



○文化・スポーツ振興課長（宮崎康弘君）

お答えいたします。

今回、10周年記念といたしましてさまざまな事業をいたしました。落語や各種コンサート等さまざまな行事を行ってまいりましたが、おおよその計画どおりの来場者じゃなかったのかと思います。若干券を購入されたが当日来られなかったとか、いろんな行事がかぶって来られなかった方もおいでだということを知っております。計画的には来場者は多いほうだったと、今回初めて試みた事業にしましては皆様方喜んでいただいたんじゃないかなと思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

以前ですね、ランダムに郵送するタイプのアンケートで市民の方に意見を聞かれたとは思いますが、そのアンケートで市民の方はこういったイベントを多く望んでいらっしゃる結果になったのでしょうか。

○議長（田口好秋君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（宮崎康弘君）

お答えいたします。

事業について終わってからアンケートをとりましたが、身近でこういう生の曲を聞けるとか、生の落語とか、非常に好評でありましたので、今後もそういう事業をアンケート等を参考にしながら展開していきたいと考えておるところでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

郵送タイプの分もされましたよね、アンケート。

○議長（田口好秋君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（宮崎康弘君）

お答えいたします。

アンケートの郵送につきましては、嬉野市文化振興基本計画を策定するに当たってアンケートをとったところでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

具体的に10周年過ぎた後の嬉野市としては、イベントされるとは思いますが、市民としてはどういったイベントの要望が多いように感じますか。

○議長（田口好秋君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（宮崎康弘君）

お答えいたします。

やっぱり小さい子ども様からお年寄りまで気軽に見られる、聞ける、そういうイベントのほうの要望もあると思っておりますので、そのような方向で進めていきたいと考えております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

ぜひこれからも嬉野市の文化、芸術の振興に尽力させていただきたいと思っております。各種イベントを行われた中で、成功だったというお話だったので、そちらにつきましてはよかったです。

続きまして、住民票発行等の機械化についてという質問なんですけれども、こちらにつきましては研究して、また別の機会に質問したいと思っております。

これで私の質問を終わりにします。

○議長（田口好秋君）

これで生田健児議員の一般質問を終わります。

引き続き、一般質問の議事を続けます。

17番山口要議員の発言を許します。

○17番（山口 要君）

議席番号17番山口要です。ただいま議長の許可をいただきましたので、嬉野市議会平成27年最後の一般質問を行いたいと思っております。

さて、本年も振り返ってみますと、実にさまざまな出来事がありました。関東・東北地区、あるいは四国の集中豪雨水害や、阿蘇、桜島、口永良部島の火山噴火等での被災による痛ましく悲しい出来事もありましたが、科学分野におきましては、昨日ノーベル賞を受賞されました大村先生、梶田先生への栄えある受賞、そして、さらには宇宙分野における「はやぶさ」や「あかつき」の打ち上げ成功と、まさに我が国の知、いわゆるインテリジェンスの高

さにおいて、面目躍如たるものがありました。このようなすばらしい業績があった反面、一歩政に目を転じてみますと、日本の保守政治の決定的崩壊というものを目の当たりにした年でもあったような気がいたします。安全保障関連法案の進め方、あるいは一昨日の消費税軽減率決定のプロセスなどにおいて、ある種ファシズムに近い状況の政治形態になってきていると感じるのは私一人ではないと思います。

このような状況を踏まえ、私ども嬉野市議会においては「立ち向かう人の心は鏡なり おのが姿を移してやみん」という言葉がありますように、過去の蓄積や経験というものをベースにしながら、コンセンサスを保っていくという、いわゆる斬新主義というものを根拠にして、可能性と希望が語れる議会というものを目指していかなければならないと改めて思った次第であります。

そして最後になりますけれども、戦後70年の本年、マスコミなどにおいてもいろいろな特集というものが組まれてまいりましたが、私自身、自分自身への問いかけも含めて、知覧の特攻平和会館や長崎の原爆資料館を訪れ、改めて戦争の悲惨さ、恐ろしさというものを痛感いたしました。このような過ちというものを繰り返さないためにも、真正面から平和の問題に立ち向かい、戦争というものを風化させない国に持っていくことを自分自身に言い聞かせたところでもあります。

前置きが長くなりましたが、本来の一般質問に移りたいと思います。今回につきましても、大きい問題で6問、細部の質問通告で42問とまさにてんこ盛りの通告であります。そのため、90分という限りある時間の中では消化できないと思いますけれども、執行部の皆さん方におかれましては、検討とかいうことではなく、はい、早急に実行に移したいと思いますというお答えをいただければ、とんとん拍子に進むところですので、ぜひそのようなお答えをいただきたいと思います。

さらには、私が時間内にできなかったことにつきましても、担当部署にお持ち帰りいただき、今後の施策に生かしていただきたいというふうに思います。

さて、本市も次年度より合併11年目に入っていく新たなスタートラインに立つわけでありますがけれども、財政状況が厳しい中、サステナブルな嬉野市づくりに向けて施策を展開していかなければならない年であるというふうに思っております。

そういう中で、「歓声が聞こえる嬉野市づくり」の将来像に向けて、目玉を含めて次年度の予算編成に対する市長の取り組み方の所見を最初にお伺いし、あとは質問席のほうから質問をしたいと思います。

**○議長（田口好秋君）**

ただいまの質問に対して答弁を求めます。市長。

**○市長（谷口太一郎君）**

山口要議員のお尋ねについて、お答え申し上げます。

次年度の予算編成についてということでお尋ねでございます。

「歓声が聞こえる嬉野市づくり」の将来像に向けて、目玉を含め、次年度の予算編成に対する取り組み方の所見を問うということでございます。

次年度の予算編成につきましては、現在、策定中であり、詳細はまだ申し上げる段階ではございませんが、人口減少、少子化、高齢化、景気低迷と取り巻く環境は厳しく、御承知のように国においては地方創生が提唱され、地方ではそれらの取り組みが求められているところでございます。それへの取り組みが本市の将来像に向けての取り組みということになります。

国の財源が潤沢に交付されるとは言いがたく、また、交付税の減額や義務的経費の増大ということで、本市の財政も対応が厳しい局面を迎えます。これらの状況を考えれば、有効な事業の選択や創意工夫が求められ、あるいは市民協働という観点からの事業展開も考えなければならぬと考えているところでございます。

以上で、山口要議員のお尋ねについてお答えとさせていただきます。

**○議長（田口好秋君）**

山口要議員。

**○17番（山口 要君）**

それでは、大きい1問、次年度予算編成にかかわる諸問題ということについて、1番、2番合わせてお尋ねをしたいと思っております。

まず、予算編成に移る前に、昨年度の決算の状況についてどのような分析をしておられるのか、お尋ねをいたします。

**○議長（田口好秋君）**

市長。

**○市長（谷口太一郎君）**

お答え申し上げます。

平成26年度決算についてというお尋ねでございますが、平成24年度、25年度と大型の投資事業があったために、平成26年度の決算規模は小さくなっておりますが、その内容は扶助費や公債費などの義務的経費が伸びていく今後の財政運営面では懸念されるところでございます。

また、嬉野市の財政が地方交付税や臨財債などに依存している現状には変わりなく、今後の財政運営は、国の政策に大きく委ねられると認識しておりますけれども、私どもといたしましても、経費の再度の見直し等も努めていかなければならないというふうに判断をしているところでございます。

以上でございます。

**○議長（田口好秋君）**

山口要議員。

○17番（山口 要君）

これは決算議会じゃありませんので、余り詳しく決算について求めることはいたしませんけれども、要するに、経常収支比率、昨年度だけ見ましても、一昨年と比較しますと、これはもう2.3%悪化しているというふうな状況であります。そのうちに自主財源というのを見てみた場合について、これが平成25年度30.3%が、平成26年度35.9%ということで、5.6ポイント高くはなっておりますけれども、これは繰越金の7億5,000万円に伴ってこのような形になってきたと、数字になってきたというふうに思っております。

ですから、要するに自主財源というのは、まさに3割自治と言われるように、30%内外で推移をしている。そして、今の国の状況を見ますと、交付税等の増額というのは恐らくもう求められない。となりますと、やっぱり自主財源をふやすということがまずキーポイントであろうと、先決問題であろうというふうに思うわけであります。

自主財源の中には税金というものが大きなウエートを占めておりますけれども、税務収納課長、税の種類というのはどのようなものがありますかね。

○議長（田口好秋君）

税務収納課長。

○税務収納課長（諸井和広君）

お答え申し上げます。

税の種類に関しましては、国税を含めて52種類ございます。国税が22種類、県税17種類、市町村税が13種類ございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

それでは、企画政策課長が一番身近な税としてはどのようなものをお考えになっておられますか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

ふるさと納税と言えばよろしいでしょうか。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

そういうことですよ。固定資産税、あるいは住民税というのが上がらない中において、やっぱりある種自由に使えるお金と、私はそのようにふるさと納税というものを捉えているわけです。課長、ふるさと納税が仮に1万円寄附されたとした場合に、市として自由に使えるお金というのはどれくらい出てまいりますか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

経費が67%を占めますので、1万円の場合でしたら、3,300円になります。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

ですよ。50%からあと経費引いて、3,300円ばかり自由に使えるお金と。

となりますと、かなり10億円入った場合については、3億3,000万円が嬉野市にとって、ある種の自由に使えるお金——自由という言葉が当てはまるかどうかわかりませんが、貴重な財源になってくるわけです。ですから、これについてはふるさと納税の分に入ったらもうまずいわけなんですから、結局、当初、インターネットを使って、そして今回、30%から50%の還元に変えた途端にぐんと上がってきた。やはりこういうことについても一つの事業、商売として捉えていくべきじゃないかと。貴重な財源をふやすためにはどうしたらいいかということをややはり財政課、企画政策課あわせて検討をしておいていただきたい。何もしゃくし定規に物事の考えをする必要はないというふうに私は思っておりますので、ぜひ今後についてもそこら辺のことを真剣に考えていただきたいというふうに思っております。入りの分については、余り懲らしめてもあれですからこれぐらいでとめますけれども。

出の分を見ましたときに、やはり今、扶助費。今回の補正でも出てきておりますように、扶助費の増額というものが今後非常にきつい問題になってくるというふうに思っておりますけれども、財政課長、いかがですか。

○議長（田口好秋君）

財政課長。

○財政課長（中野哲也君）

高齢化に伴いまして、扶助費は確実に伸びるものと認識をしております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

結局、今、20%をもう扶助費で占めているわけですね。全体の30億円。だから、30%、20%を占めるということは、やはりその扶助費がもっともっと多くなればなるほど、あとの費用に占める割合が小さくなっていく。ですから、そこら辺のところも十分に今後の予算づくりについては検討していかなければならないというふうに思うわけでありまして。そこら辺のところを前提に置きながら、次年度の予算規模というものを大体どれくらいというふうに見ておられるのか。平成25年度が当初予算151億5,500万円、平成26年度が、市長改選がありましたので、6月補正で合わせて156億2,878万円、平成27年度の当初が132億8,200万円という数字の中で、最終的に決算を見ましたときには、平成25年度が162億1,132万円、約11億円プラス、当初プラス決算ではですね。そして、平成26年度が、これは6月補正から少なくなりまして、156億円から149億円に減っておりますけれども、平成27年度、これは当初予算132億円から始まって、今、9月補正で見まして142億円、もう10億円上がってきております。平成27年度の予算の推移を含めて、来年度の予算規模というものを大体どれくらい見込んでおられるのか、ゼロシーリングになるのか、あるいはマイナスシーリングになるのか、プラスシーリングになるのか、そこら辺のところだけ財政課長お尋ねします。

○議長（田口好秋君）

財政課長。

○財政課長（中野哲也君）

お答えいたします。

まだ詳細な額につきまして申し上げる段階ではございませんけれども、予想という範囲でお答えさせていただきますけれども、平成27年度12月補正、現在提出しておりますそれにおける一般財源がおよそどれくらいあるかということシーリングとして配分をしまして、現在、検討しておりますけれども、それによりますと、平成27年度はおっしゃいますように、当初が132億円でございますので、今現在142億円と先ほどおっしゃいましたとおり、そのあたりが目安になるものと考えておりますけれども、公債費の増や、先ほど話題になりましたふるさと納税の増、あるいは地方創生に絡む交付金での展開する事業などを加味いたしますと、それよりも幾らかふえるのではないかと想像いたしております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

基本的には、結局、ゼロシーリングということで考えていいわけですか。

○議長（田口好秋君）

財政課長。

○財政課長（中野哲也君）

お答えいたします。

用意できる一般財源に限りがございますので、あと財政調整交付金からどれくらいの金額を当初で崩して繰り入れるのかということにかかってまいりまして、今、想定しているのは平成27年度当初の財調の繰入金並みを想定しておりますので、ゼロかと言われればゼロシーリングという考えでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

とりあえず、私が願いますのは、マイナスシーリングまでいかなくても、やはりゼロシーリング並みにとどめていただきたい。そこがマックスだろうというふうに私は思っておりますので、ぜひそこら辺のことを頭の中に入れておいていただきたいと思っておりますけれども、そういう中で、実は県のほうは、これは新聞にも載っておりましたけれども、財政健全化に向けた取り組みを進め、限りある経営資源の重点的、効果的な活用を図るといふような通知を出しております、各部署に。本市においても、そこら辺のところの通達等々含めてお考えになっておられるのかどうか、お尋ねをいたします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

次年度の予算等につきましては、既に説明等を行ったところでございまして、今、御発言のような雰囲気ですら既に指示をしておるところでございまして、できる限り事業の見直し等を行っていきたいということで説明をしたところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

そこでまず1番目には、シーリングという考え方。これについては嬉野町時代に、今亡くなられた増田課長、当時は副市長が財政課長補佐でおられたというふうに私は認識をしております。池田企画政策課長がそのときの主任か何かで財政課におられたと、シーリングが決定したというふうに覚えております。一般質問等で御提案申し上げたわけなんですけれども、これシーリング、今の状況について副市長、どのようにお考えになっておられますか。

○議長（田口好秋君）

副市長。



**○副市長（中島庸二君）**

お答えいたします。

当時、平成14年度からシーリングを実施しました、予算からですね。その当時は非常に予算規模も六十何億で、シーリングを実施しないときは15億円ぐらい予算要求のオーバーがありました。そういうことで、何をやりたい、これをやりたいというのはあるんでしょうけれども、ある程度シーリングが必要だということでシーリングを始めたわけですが、非常に厳しい中に、その中にそれなりにおさめていただきました。ただ、現在の状況を見ますと、果たしてシーリングが全てだろうというのは私はそうは思わないんですけれども、ただ、ずっと合併したときはある程度豊潤な合併特例債、また、補助金等がございましたので、いいんですけれども、算定がえになりますので、今後ますます交付税等も減ります。だから、今の状況で私はやはりシーリングは必要だろうということで考えております。

以上でございます。

**○議長（田口好秋君）**

山口要議員。

**○17番（山口 要君）**

確かに私もそうだと思います。

ただ、これシーリングという考え方、それが本当に全部課長さんたちに浸透しているのかなということについては甚だ私は疑問に感じるところがあるわけなんです。どうしても役所においては、スクラップ・アンド・ビルド、先ほど市長はいろんな効果的な事業の展開というふうなことを申されましたけれども、どうしても前例踏襲というふうなことで、今まであった事業というものをなかなかスクラップしようとしなない。そこに加えてビルドをしようとする。となると、どうしても、そのビルドの分が限られてくるわけですね。そして、あるときには、後の補正予算で対応しますというふうな答えもこの議会であった経緯もあります。そういうふうな物の考え方では、シーリングというものに対する認識が甘いと言わざるを得ない。ですから、シーリングにとって一番大事なことは、枠内、マックスの枠内において、いかにスクラップ・アンド・ビルドを図るかというふうなところが一番大事なことではないだろうかというふうに思うわけです。そこら辺、市長ですよ、各部課長さんたち、そこら辺もう十分認識されていると思っておられますか。

**○議長（田口好秋君）**

市長。

**○市長（谷口太一郎君）**

お答え申し上げます。

シーリングの、いわゆるシステム、また中身についてはもう十分理解していると思っております。ただ、現場では、今非常にスリム化しながらやっておりますので、いわゆる事業1

つにとりまして、国、県の絡みの事業をできるだけ導入しながらやっているわけですので、やはり国、県の予算の状況に合わせて組んでいくということになりますと、どうしても私どものベースと、もう1つは県のベース、国のベースというのがありますので、単純に単年度で終わりたいものも終われないという事情があって、2年、3年かかって行うという案件がふえてきているのは事実でございますので、そこらについては非常に苦勞をしているというふうに思っております。

以上でございます。

**○議長（田口好秋君）**

山口要議員。

**○17番（山口 要君）**

結局、そのリピートの中で、だんだんだんだん予算が膨らみ、もう積み上げ方式みたいな形になってしまうわけですので、やはり次年度の予算編成に当たっては、十分にそこら辺のスクラップ・アンド・ビルドという認識を再確認しながら、予算編成を行っていただくようお願いをしておきたいというふうに思います。これだけやっても時間が足りませんので、次に移ります。

次に、子どもの貧困対策ということでありまして、昨日も梶原議員のほうからもこれに関連した質問がされておりました。今現在、ひとり親家庭というのが本市において347人、児童扶養手当受給資格者——児童扶養手当をいただいている方が267人で、ひとり親家庭の医療費助成のみの方が8人、計の347人いらっしゃるわけでありましてね。これだけひとり親家庭がふえている中において、やはり非常に生活的にきつい状況に追い込まれておられる方が多分いらっしゃるというふうに思っております。そういう中で、実はやっぱり市としても、そこら辺の対策を組んでいかなきゃならないというふうに思うわけでありましてけれども、実は国において子どもの貧困対策の推進に関する法律というものが今年の1月施行をされ、その第14条においては、国及び地方公共団体は対策を適正に策定し、実施するため、子どもの貧困に関する調査及び研究その他の施策を講ずるというふうなことがなっております。

本市においては、そしてもう1つ施策として、まずどのようなものを考えておられるのか、それを簡潔にお伺いいたします。

**○議長（田口好秋君）**

市長。

**○市長（谷口太一郎君）**

お答え申し上げます。

福祉の、子どもさんのいわゆる貧困対策についてというところでございますけれども、私どもの資料では、本市の生活保護世帯の中で、ひとり親家庭ということがあるわけござい

ますけれども、現在、ひとり親家庭の生活保護の中の世帯数は3世帯ございます。うち母子家庭の方が2世帯、父子家庭の方は1世帯ということでございます。

その中で、議員御発言に関連しますけれども、いわゆる国のほうが全国的な調査を実施したいということで計画をつくっておるところでございますが、まだ、いわゆる調査希望の照会等もなく、今後の動きを見ていきたいというふうに思っておるところでございます。

そのことで現在、子どもの貧困に対する私どもの対策としては、やはりひとり親世帯への経済的な支援が効果的であると考えておるところでございます。ひとり親家庭医療費助成事業や保育料、それからまた、学童保育利用料等の減免措置、また、高等職業訓練促進給付金などの支給を行って、まず生活の安定を図り、子どもたちが貧困に陥らないように継続して支援をしていきたいと考えておるところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

まだ国から来ていないということでありまして、国は足立区で行った調査というものを参考にしながら、国は各市町村にそのことを通達する予定であるというふうな状況でございます。そこら辺のところを一遍お調べになっていただきたいというふうに思います。

本当に今貧困の連鎖ということで、子どもの能力、あるいは努力よりも親の経済力で子どもの将来を決めてしまうというふうな状況、全国的な傾向にあるわけですので、そこら辺のことについても十分に検討しながら、次年度の政策の中にも生かしていただきたいというふうに思います。

昨日、織田議員のほうから質問がございました高校生等奨学給付金制度ですね。これについては、もう資料をごらんになっておわかりになったと思いますけれども、これ国事業で、県が中心になって行っているわけなんです。そこら辺の事業についても十分にお調べになって、各そういう世帯に対して案内といいますか、情報をお出しになっていただければ、有効利用ができるんじゃないかなというふうに思っております。県が管轄しているからわからないということじゃなくして、国の事業であっておりますので、だから、県等にも問い合わせをしていただいて、ぜひ本市でも実施に移していただきたいということを要望して、次に移ります。

次に、聴覚障がい者への対応でありますけれども、佐賀県の聴覚障がい者サポートセンターが7月、8月に県内の公共施設21カ所を調査した中で、やはり聴覚障がい者に対して情報を保障する整備状況というものが不十分と判定がなされておりますけれども、本市の施設における状況はどうかということをお尋ねしたいと思います。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

議員御指摘の聴覚に障がいをお持ちの方に対する施設の状況はどうかということでございますけれども、私どもの公立の文化施設等におきまして、いわゆる独自の対応はできておらないということでございます。

ただ、先般つくらせていただきました指さす会話板等については置いておりますけれども、そのほかのものにつきましては、対応ができていないということでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

いろいろこの対応というのは難しい分があるかと思っておりますけれども、今、手話等も普及がなされているように、やはりバリアフリー、障がい者に優しいまちということをやろうとするならば、やっぱりここら辺のことについても今後の検討課題としていただきたいというふうに要望をしておきたいと思っております。

次に、高齢者対策で、本市にこの前、高齢者のひとり暮らしが1,586世帯、高齢者だけの世帯が966世帯と、本当に多いわけでありましてけれども、この深刻な問題にこのことがなってくるというふうに思っております。そういう中で、御承知かと思っておりますけれども、県は、音声装置、警告音声を流して通話、録音する機能を備えた装置を1,000台導入予定というふうになっております。これは台数に限りがあるというふうに思っておりますけれども、対象者の選定基準というものがどのような形で行われるのか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（田口好秋君）

市民福祉部長。

○市民福祉部長（田中昌弘君）

お答えいたします。

県内で1,000台の機器が調達されるということをお聞きしておりますが、これについてはさまざまな団体等が申し込みをするわけで、貸し付けの対象者の抽出をした後に、協議の上で選定されるというふうなことだけしか聞いておりませんので、具体的に各市町で割り振りがあるとか、そういうことは聞いておりません。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

恐らく本市だけでも、もうこれ、結局1,000台ということは、県下に1,000台ですので、台数にどうしても限りが出てくるというふうに思います。県の予算からはじき出してみますと、1台当たり1万円なんですね。1,000台で1,000万円ですから、1台当たり1万円しかかからない。ですから、ここら辺については1台1万円で済むことでありますので、ぜひ本市においても、それがいい機器であるとするならば、本市の独自の予算でこのことに対する普及というものを図っていただきたいということで要望をしておきたいとします。

次に、認知症の対策でありますけれども、実は認知症の初期集中支援チームのことで、これが当初新聞紙上で見ましたときに、これを開設しているのが唐津市だけというふうな報道がなされておりました、県内で。なぜ嬉野、今、認知症の相談業務が嬉野庁舎であっている中でここら辺で取り組みの手を挙げなかったかなというふうに不思議に思っておりましたけれども、そこら辺の、なぜ最初に手を挙げなかったかなというこの経緯と、そして、この前の新聞を見ますと、県議会の中で27年度に設置予定が3市町とありましたので、恐らくこの中には入っているだろうというふうに思っておりますけれども、そこら辺の確認だけをお答えいたします。

○議長（田口好秋君）

市民福祉部長。

○市民福祉部長（田中昌弘君）

お答えいたします。

この認知症の支援チームにつきましては、介護保険の地域包括支援事業の中で、今後、取り組むようにしております。その中で杵藤広域で今現在検討中でございます。この支援チームの研修等については、今職員が1名行っておりますので、資格は持っておりますが、介護保険の地域支援事業の一環として取り組むために今、3市4町で協議をしている段階でございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

じゃ、結局、県議会の質問の中で県調査では27年度に設置予定が3市町、28年度が4市町、未定が12市町だったというふうな答弁がっておりますけれども、嬉野市はここの中に入るんですかね。

○議長（田口好秋君）

市民福祉部長。

○市民福祉部長（田中昌弘君）

お答えいたします。

今議員が質問されたところに嬉野市がどこに入っているかというのは把握しておりませんが、嬉野市としては杵藤広域のほうで包括的支援事業の一環として取り組むという方向ですので、今先ほど言われたところの中に嬉野市がどこに入っているかというのは把握しておりません。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

それでは、そこら辺のところについては確認等をしていただきたいというふうに思っております。

その認知症なんですけれども、実は東京の足立区において、高齢者の見守りキーホルダーというものの配付が始められております。65歳で認知症に近い方に登録番号が入ったキーホルダーを配付するというふうなことでありますけれども、そのことについては御存じでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市民福祉部長。

○市民福祉部長（田中昌弘君）

一般質問を見まして把握をいたしております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

足立区で今そのような取り組みをなされておりますので、ぜひ本市においても検討していただきたいというふうをお願いをしておきたいと思っております。

この介護予防については、今、東京の清瀬市なんかでカラオケが非常に効果を発しているというふうな記事も出されておりました。市長、非常にカラオケ好きだと思いますけれども、そこら辺について、市長もそこら辺の介護予防につながっているというふうにお思いですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

いろんなカラオケの方が、いわゆるチャリティーで行っていただきますので、お招きいただいて、御挨拶して御寄附等も社協のほうにいただくわけがございますけど、やはりカラオケに親しまれる方は非常にしっかりしておられますし、また、記憶力もしっかりしておられ

ますので、効果としてはあるんじゃないかなというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

今、高齢者教室の中でカラオケの教室はありますか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

高齢者の教室の中でも、全部ではないと思いますが、やっておられると思います。

以上でございます。（「やっておられますか」と呼ぶ者あり）思います。（「間違いないですか」と呼ぶ者あり）

○議長（田口好秋君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（宮崎康弘君）

お答えいたします。

現在、公民館のほうで週何回かちょっと把握しておりませんが、うちのほうでとか、あとリバティでは発表会等もなされております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

市民福祉部長。

○市民福祉部長（田中昌弘君）

福祉のほうでは来年度からは音楽を取り入れた介護予防室を予定はしております。（「予定ですね」と呼ぶ者あり）はい。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

音楽、カラオケも含めて音楽というのが今非常に音楽療法というものも言われておりますけれども、そのことが効果を発揮しているようでありますので、本市のいろんな高齢者教室等々の中でも施策として取り入れていかれたらいいかというふうに思っておりますので、御検討をいただきたいと思っております。

次に行きます。

次に、健康づくりでありますけれども、実は、この前、委員長報告にもありましたように、

上田市に行ってまいって非常に参考になったところであります。後段から行きますけれども、私、このことは以前提案したような気がするんですが、はっきり覚えていなかったんですけども、スマートウェルネスシティについて提案した経緯がありますかね、なかったですかね。

○議長（田口好秋君）

暫時休憩します。

午後 2 時19分 休憩

午後 2 時21分 再開

○議長（田口好秋君）

再開します。

山口要議員。

○17番（山口 要君）

じゃ、このスマートウェルネスシティについて、担当課でどのように認識をしておられるのかということだけをお尋ねしたいと思います。

○議長（田口好秋君）

健康づくり課長。

○健康づくり課長（染川健志君）

お答えいたします。

スマートウェルネスシティにつきましては、今現在、27年11月現在ですけれども、61の……（「それはもうわかっつ」と呼ぶ者あり）すみません。参加されているようです。

私のほうは、スマートウェルネスシティについては、今回の一般質問で初めて知っているような状況です。

中身については、うちのほうも健康寿命の延伸を図り、健康長寿のまちを実現するために、スマートウェルネスシティの首長研究会については、参考になる取り組みだというふうに認識をいたしております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

これは委員は嬉野市が健康保養都市等々ということであつておられますけれども、一番この部分が当てはまる部分があるわけなんですね。これは筑波大学の先生が始めておられるわけですけれども、そこが健康都市の目的というものは、人々の健康の向上と地域力の向上というふうなことをうたいながら、今、展開をしておられます。そこにおいては、健康づくりじゃなくして、都市計画も踏まえたところの研究会というふうになっているわけでありま



す。佐賀県においては多久市さんが入っておられると思いますけれども、ぜひここは会費は要らない、年2回研修会があって、そのときの研修費用だけなんです。それは市長じゃなくしても、あと担当課の職員が行かれてもいい研究会なんです。ぜひこの研究会にはお入りになったほうがいいというふうに思いますけれども、市長いかがですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

この研究会につきましては、私どももぜひ加入をしていきたいと思っておりますので、本部のほうにも問い合わせをしてみたいと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

ぜひ近々のうちに加入の手続きをしていただきたいというふうに思います。

その会に加入することは別にして、やはり健康づくりの中で一番大事なのは歩くというふうなことがベースになってくると思いますけれども、市長、市長の1日当たりの平均歩数というのは大体どれくらいですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

歩数計は使ったことはございませんけど、朝大体4キロぐらいは歩いておりますし、また、普通も結構歩いておりますので、どうでしょうかね、五、六キロは歩いていると思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

ここで歩数計をつけておられる方いませんか。——手ば挙げんだけやろう。じゃ、部長、大体1日どれくらいですか。

○議長（田口好秋君）

市民福祉部長。

○市民福祉部長（田中昌弘君）

5,000歩から6,000歩の合い中です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

2013年の成人の平均歩数を見ますと、男性が7,099歩、女性で6,249歩、これが実は10年前のはかった数字よりかも今平均歩数が下がっているんですよ。だから、いかに今歩く回数といますか、それが少なくなっているかということが数字であらわれているというふうに思いますが、やはり歩くことが健康に一番つながる基本だというふうに思います。そういう意味で、これは委員長報告でありましたので、深くは言いませんけれども、やはり楽しみながら歩くというふうなことも一つの健康づくり課の施策の展開としてどういう形で市民に呼びかけて参加させたらいいかというふうなこともあわせて御検討いただきたいというふうに思います。

実は、「ためしてガッテン」の中であっておりましたのは、インターバル速歩ということですね。速歩きと遅歩きを繰り返す、それが非常に体にいい状況であらわれている結果が出ているわけなんですので、そこら辺もあわせて次年度の施策の中にどれか1つそういうことを入れてみてください。これはこれで終わります。

次に、非常用電源の問題であります。

防災対策で9月の関東・東北豪雨を受けて、総務庁、消防庁が調査を行っております。その中で、200の自治体の中で浸水対策の不備というものが判明をしているわけでありましてけれども、本市の場合はいかがですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

いわゆる浸水対策の範囲というのが非常に今、広げて検討しなくちゃならないということでございますけれども、もちろんこの塩田庁舎につきましては、年に1回ぐらいは浸水をいたしておりますので、完全にできているかというのと、なかなか厳しい状況ではございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

嬉野市の、この前、総務部長にお聞きしたところによりますと、非常用発電機というのは教育長室の下あたりですかね。（「1階の分です」と呼ぶ者あり）1階の分ですか。そこはまず南海トラフ地震とか、ああいうふうな大きなことがあっても大丈夫ですか。

○議長（田口好秋君）

総務企画部長。

○総務企画部長（池田英信君）

想定外の物すごい大きな地震があった場合には、階下ですので、潰れる可能性はあるわけですが、それ以外の分については浸水についても平成2年以降、浸水したことはございませんので、大丈夫かなというふうに判断しております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

結局、今まさかまさかが起きているわけなんですね。もう想定外というのが今回の関東・東北の集中豪雨にしても、まさに想定外の集中豪雨だったわけですね。ですから、やはり行政においては、想定内だけではなくして、想定外ということについても少し検討されて、じゃ、そこら辺のところどこが一番安全なのかということについても、再度御検討をしていただきたいというふうに思います。

実は発電機ありますよね、蓄電池は本市に備えてありますか。

○議長（田口好秋君）

総務課長。

○総務課長（辻 明弘君）

お答えいたします。

本市には蓄電池は現在ございません。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

これについては随分と前に蓄電池の設置について私が一般質問で提案した経緯があります。実は、本年9月の関東・東北集中豪雨では、完全復旧というものに5日間かかっているわけですね。ですから、広島の土砂災害については1週間要している。そうした場合に、もう発電されないからパソコン等も使えないわけですね。となると、いろんな事務に支障を来してくるというふうなことが考えられますので、今後については、ここに書いております民間の燃料販売業者も無論でありますけれども、やはり蓄電池の設置ということについても、少し検討をしてみられたらどうかなというふうに思いますので、検討してください。よろしくお願ひします。

次に行きます。

次に、小学校の消防設備でありますけれども、本市の各学校における消防設備の点検というものは、定期的に行われているかどうかということについて、これ教育長ですかね。

○議長（田口好秋君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

各学校の消防設備についてですけれども、各小・中学生の消防設備の保守点検は専門業者に委託して行っております。その結果につきましては、教育委員会と学校に報告され、また、3年に一回は消防署へ報告され、消防署より指摘と改善計画の提出が義務づけられているところではあります。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

その義務づけられているというふうな中でも、今回、会計検査院が公立小学校の消防点検の状況を調査したところ、20府県の中で3,000校で消防設備の劣化というものが見つかっているわけでありまして、本市においては、県内では15市町で問題があるというふうに指摘がされております。本市においては、そこら辺の問題は全然なかったんですか。

○議長（田口好秋君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

お答えをいたしたいと思いますが、定検によりまして、吉田中学校の屋内消火栓、それから、大草野小学校の防火壁の蓄電池の交換等が必要であるという指摘を受けております。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

指摘を受けているというかですね。ですから、そこら辺については早急に対応をしていただきたいというふうに思います。

次に行きます。

次に、これは9月議会において梶原議員のほうからヘルメットの購入補助ということについて一般質問が出されておりました。そのときにはけんもほろろに補助をしないというふうな答弁がなされておりますけれども、実はもう先刻、御存じかと思っておりますけれども、吉野ヶ里町において、小学生まで広げた形でヘルメットの購入補助がなされております。やはりこれは非常に今——前回の答弁の中では、お譲りとかなんとかというふうな答えもあっておりますけれども、やはりここら辺については子どもたちの安全を守るという観点からしたときに、ヘルメット1台当たり——ヘルメット1台当たり大体どれくらいしますか。

○議長（田口好秋君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

大体3,200円前後です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

3,200円ということは、今、自転車通学の生徒数が全部で372名、3,200掛け372は幾らですかね、約100万円ですね。今持っている方を合わせて全部でかかったとしても100万円。新入生の方に、仮に小学生までと言わなくても、中学生の方にしようとする場合、そんなに予算というものはかからないというふうに思いますけれども、中学生をした場合に大体1学年当たり120人ぐらいですか、120人ということは約30万円ぐらいで済みますよね。それくらいの金額だったら何とかなるんじゃないかなというふうに思いますけれども、そこら辺お金の問題なのか、考え方の違いなのか、そこら辺だけ市長か教育長かお答えをいただきたいと思います。

○議長（田口好秋君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

私のほうからですけれども、吉野ヶ里町の補助率は50%しております、50%です。上限額は1,500円ということですので、全額じゃないんですね。ですから、そういうところでいくと、吉野ヶ里町の生徒さんの数もちよっと少ないですので、そういうところもございます。それから、玄海町あたりも50%補助をしております。そういったことでいくと全額じゃなくても、今後シーリングの枠の中でおさまることがあれば、検討をしていく方法もあるのかなというふうに思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

結局、もう15万円で済むわけですね。50%とした場合。100人と仮定した場合ですよ。それくらいの金額でしたら、やりくりすれば子どもたちの安全を守るという観点からすると、いい施策だというふうに私は思いますので、ぜひ御検討をいただきたいと思います。

次に行きます。

次に、産地名登録制度であります。これが、ことしの6月1日から産地名登録制度が始まっております。その中で、本市はお茶等について申請されなかったというふうに思っておりますけれども、申請されておられるんですかね、確認をいたします。

○議長（田口好秋君）

うれしの茶振興課長。

○うれしの茶振興課長（宮田誠吾君）

申請いたしておりません。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

その理由はなぜですか。

○議長（田口好秋君）

うれしの茶振興課長。

○うれしの茶振興課長（宮田誠吾君）

産地名登録制度につきましては、6月に開始を受けまして、県の説明会が7月30日に実施されております。その対象者として登録の申請を検討している団体ということで、その団体を支援する市町ということで説明がっております。この申請につきましては、あくまでも生産加工者の団体が申請をするものということになっています。それで、お茶といたしましては、嬉野茶につきましては、佐賀県と長崎県両県にまたがった産地でありまして、品質の基準が両県で異なっているということで、まだなかなか申請がなされていないところであるかと考えております。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

それをクリアする方法はないんですか。

○議長（田口好秋君）

うれしの茶振興課長。

○うれしの茶振興課長（宮田誠吾君）

両県のお茶を集めたところが嬉野茶流通センターですね、流通センターが集めておるわけですが、今のところ、そこまでのところの話はしておりません。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

実は知覧茶、あるいは八女茶は申請をしてあるんですよね。してあるんですよ、今回申請を。ちゃんと登録してあるんですよ、申請してあるんですよ、八女茶と知覧茶については。これがですね、嬉野茶においては、地域団体商標登録制度には登録をされております。あれについては特許庁の所管なんですね。ですから、この地域団体商標登録制度については、品

質、あるいは商品内容についてのチェックはなされていない。ところが、今回の産地名登録制度については、きちんと品質まで踏み込んでお墨つきを与えるというふうな制度になっているわけなんです。結局、この一般質問においても、お茶の輸出等々言われておりますけれども、それにも当然かかわってくる問題なんですね。その産地名登録制度、国からの認証をいただければ、やっぱり輸出についても非常に優位に取り計らわれる。ぜひこれについては、再度検討して登録申請するような御努力をしていただきたいと思います。私は恐らく地域団体商標登録制度があるから、これに取り組んでいないんじゃないかなというふうな気がしていたんですよ。もう今後について非常に大事なことなので、ぜひ取り組む形で御努力をしていただきたいと思います。

そして、おもてなし認証制度、これはT議員がおもてなし条例というふうなことで一般質問でも提案をされておりますけれども、実は経済産業省が東京オリンピックに向けて、おもてなしにすぐれた旅館、あるいは商店街等にお墨つきを与える認証制度、これが次年度より始まる予定になっております。そのことについて担当課としてどの程度今検討をしておられるのか、そして、認識をしておられるのか、お伺いいたします。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（宮崎康郎君）

お答えいたします。

この経済産業省のおもてなし認証制度につきましては、スケジュールをちょっと拝見しますと、平成28年の2月をめどに取りまとめを目指すとなっておりますので、今後、この詳細が明らかになっていく中で情報収集に努めていきたいと思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

ぜひ情報収集をきちんとされて、次年度に向けてそういう取り組みをしていただきたいと思いますというふうに思います。

前段の先ほどの地域団体商標でありますけれども、これがG I マークというのを出しているというのは御存じですよ。このことが仮に海外で嬉野茶というにせものがあった場合でも、このG I マークがあれば、それが法的措置というものがとられるシステムにもなっているわけなんです。だから、先ほど申しましたように、輸出にもかかわってくるというふうなことでありますので、先ほど申しましたように、ぜひ今後について茶連あたりと検討していただきたいと思いますというふうに要望しておきます。

○議長（田口好秋君）

うれしの茶振興課長。

○うれしの茶振興課長（宮田誠吾君）

議員の言われるとおりに、茶連等と話をしまして検討していきたいと考えております。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

次に、アンテナショップでありますけれども、このことについては、嬉野町時代から何回も何回も御提案申し上げて、なかなか実施に移っていないところでありますけれども、実は浅草六区に新しいビルができております。ことしの12月オープンをいたしたんですけれども——東京楽天地。その中に、福岡の柳川市等々を含めて17市町村の団体、熊本の菊池市、豊後大野市、鹿児島県の薩摩川内市等が共同でアンテナショップに入られるようになっております。このことについて御存じなのかどうか、お尋ねいたします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

この件につきましては直接は存じておりませんので、早速、調べさせていただきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

単独では無理としても、こういう共同の形で出せれば、また一つの効果が出てくるんじゃないかなというふうに思っております。ここでは物品だけではなくして、結局、食材を使った料理というものも出されるというふうに知られております。ですから、例えば、湯豆腐なんかでもそこら辺で出されるというふうな可能性もあるわけですので、そこら辺のところについて一遍もうオープンしているか——来週かな、オープンするかと思いますので、ぜひ市長、東京に行かれる機会に浅草にお出かけになられて、ごらんになっていただきたい。そして、今後の参考にしていただきたいというふうに思います。

もう1つその関連の中で、ハピキラの社長が嬉野市にお越しになっているという情報を耳にしましたけれども、御存じないですか。（「ありません」と呼ぶ者あり）御存じないですか。

これは若い女の子が会社をつくってやっているところなんですけれども、地方の名産品なんかを、その女の子たちが中心になってつくって、それをネットなんかで売り込んでいる会



社なんです。この方たちが嬉野市に来たという情報を私聞いたんですけれども、御存じなかったら一遍ちょっとハピキラだけについて、どういう会社か、そして、どのようなことを行っているのか情報収集をしてみてください。

そして、県——県は恐らくわかって、知事なんかを訪問しているかと思しますので、県等に問い合わせをしてみられて、その子たちを上手に使って嬉野市の産品を売り込むという方法も考えていただきたいというふうに思います。よろしいですね。来週また聞きますのでね。

次に行きます。

次に、地域記念日ということであります。自治体等が今、知名度向上、そして活性化を目指して記念日を定める動きというものが盛んになってきております。日本記念日協会ということについて御存じなのかどうか、お尋ねをいたします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

この件につきましては、一般質問の通告をいただいた後に勉強をさせていただきました。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

長野県に日本記念日協会というのがあるわけなんですけれども、この協会に登録されている全国の記念日というのが約1,200、九州・山口関連だけで70ということであります。豊後竹田市なんかは3つの記念日を設定しております。1月10日が移住の日、そして、8月10日が全力発展の日、そして、あそこは昭和のまちということですので、4月29日、昭和のまちの日ということで記念日を設定して、全国に売り込んでおりますけれども、私も大分、ない頭を絞って考えたんですけれども、温泉という、それを数字にあらわしたら、「泉」は1,000で思いついたんですけれども、そこにどうくっつけたら日にちに設定できるかなというふうなことも思ったりしたんですけれども、こういうふうな語呂合わせの名称、登録というものについても少し検討されて、そして、例えば、嬉野温泉の日、何月何日というふうなところで、宿の日というのがありますよね、8月10日。ああいうふうな形で嬉野温泉にもじったようなところについて、少し記念日ということについて検討されてみたらどうかというふうに思いますので、よろしくお願いをしたいと思います。

そして次に、今、世界遺産ということで佐賀市の三重津海軍所跡なんか非常にお客さんがふえてきているわけなんですけれども、あれをもじって今、例えば、世間遺産、あるいは街

角遺産というふうなところで、地域の観光資源というものを掘り起こす試みというのが広がってきております。

例えば、常滑市においては、ちょうど市制60周年というのを記念して、28の地区ごとにそれぞれ各地区にそういう、何ていうんですか、ほかの地区に誇りたいようなものを見つけ出して、そして、世間遺産というふうなことで出されております。そして、大分県の杵築市なんかはフェイスブックで思い出の場所なんかを登録するような形もなされております。これのことについても、少し情報収集をなされて、嬉野市の一つの施策として展開されたらどうかというふうに思いますので、御努力をお願いしておきたいと思います。

次に行きます。

次に、いよいよもう最後になりましたけれども、地域おこし協力隊、あるいはコンシェルジュについて、その後の動きはどうなったのかということでお尋ねをしたいと思います。

昨日の一般質問の中では、県のコンシェルジュを使いながら情報収集をしているというふうな答弁がっております。私の一般質問のときにはコンシェルジュに早々に取り組みたいというふうな答弁もあっておりました。そのことを含めおいて、今現在どのような状況になっているのかということをお尋ねいたします。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

まず、地域おこし協力隊でございますけれども（「それはいいです」と呼ぶ者あり）よろしいですか。（「コンシェルジュだけでいい」と呼ぶ者あり）

コンシェルジュのほうなんですけれども、この分につきましては、国のほうで県にゆかりのある方41名、佐賀県の場合は設置をされておりますので、この方たちに相談あたりを今後していきたいという考えでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

今まで、何回議会しましたね、それから今まではそういう動きだけだったんですか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

コンシェルジュを活用したいということで、リーサスですね、この使い方については幾らか動かしてわかったんですけれども、この活用の仕方がどうにもわからないということでご

ございましたので、私が直接コンシェルジュ登録をされている方にお電話をして、嬉野市のほうで説明会を開いてくれという要望をいたしましたけれども、残念ながら、ちょっとその方が認識不足といいますか、お断りをされました。今後、再度そちらのほうにお願い等をしていきたいとは考えております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

ぜひ今後について取り組みを進めていただきたいということを要望しておきたいと思えます。

次に、地域おこし協力隊でありますけれども、前回の質問のときにはもうこのことについては余り触れないというふうな答弁を聞いたような気がいたしますけれども、今現在のお考えというのはどうなっていますか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

地域おこし協力隊につきましては、江北町さんのほうで実際成果も上げられて、お二人いらっしゃるけれども、そちらのほうにうちの職員を勉強に行かせまして、何とか嬉野市のほうでもできないだろうか。勉強をしておりましたけど、一つそちらのほうから言われたのが、しっかり目的をしないと、こちらのほうに地域おこし協力隊の方が来られても、途中で帰られたりとか、そういう事例もあるということで、まず目的をしっかり持つ。それと、サポート体制ですね、これらをしっかりして取り組みをしてくださいというアドバイスをいただきましたので、その辺を今、勉強しているところでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

今、県内で8市町、15名の方が地域おこし協力隊として派遣がなされております。今、国の方針としては、2016年度までに隊員を今の1,500人から3,000人に増加するというふうな方針を示しております。そういう意味で、今課長が言われたように、やはりその受け入れ態勢ですよ、そこの整え方、あるいは教育というものが不可欠であろうというふうに私も思っております。課長が言ったように、中盤で帰った隊員の方を情報として知り得ております。でも、その方が軸になってまちが活性化したという情報も私は知り得ております。だから、そこら辺の、要するに地域おこし協力隊員の嬉野市としての使い方、方針等がいかに持って

いるかによって、その方たちを上手に使いこなされるかというふうな形になっていくというふうに思いますので、そこら辺の方針というものを早急に固めていただいて、先ほど申しましたように、来年度はもう3,000人に増加するというふうな国の方針もありますので、今後について勉強、検討をしていただきたい。そして、このことについては、例えば、給料や必要経費、そのことについては国の負担になってくるわけですから、市としてはほとんど持ち出ししないわけですから、ぜひ今後について検討していただきたいということを要望しておきます。

あわせて、これは山口議員からも質問があったと思いますけれども、前も私そのことを申しましたけれども、ファンクラブですね、第2の市民クラブといいますか、例えば、ふるさと納税に寄附した方とか、そこら辺の方を嬉野ファンクラブというふうな形でして、やはりそういう方でも移住するのは非常に無理だけれども、そこのまちの応援者になりたいという方はいっぱいいらっしゃるというふうに思うわけです。ですから、そういうような方を嬉野の親衛隊といいますか、そういう形で取り込んだら、もっともっと全国的に嬉野市が発信できるんじゃないかなというふうに思っております。これは小布施市が今いい形でやっておりますので、ぜひ事例というものを参考にしながら、今後の検討でお願いをしておきたいと思っております。

それでは、一番最後の問題になります。余り私こういう問題は好きじゃないんですけれども、たまにはしておかないと、市民の方から怒られますので、させていただくわけなんですけれども、まず、温泉センター周辺ですね、温泉センターがあったときにはあそこら辺の街路灯、6つぐらいありますけれども、街路灯がついておりました。しかしながら、今、川沿いのところを歩きますと、真っ暗な状況です。それで、あそこら辺の班の人が辛うじて街灯という形で1つつけられました。それが1つあるだけで、あととにかく温泉センター、横の分の旧温泉センター通り。もう、とにかく真っ暗なんです。この前、観光客の方が歩いておられて、怖いよねというふうなところで耳にしたことがあるんです。ですから、このことについては何らかの手が打てないかなというふうに思うんですけれども、どなたか担当課お答えいただけますか。

**○議長（田口好秋君）**

うれしの温泉観光課長。

**○うれしの温泉観光課長（宮崎康郎君）**

お答えいたします。

ちょっと商工会のほうに事情をお聞きしました。温泉街の街灯については、嬉野町街路管理委員会で管理しているということで、先ほど議員がおっしゃったように、建設のときは地元の要望で商工会で設置しましたと。あとその後、施設が撤退されたということで、今現在の状況に至っているということでした。その街路灯につきましては、角型とポール型という

のがありますけれども、各地区や団体等から電気代を徴収して支払いをしているということでした。うちの嬉野温泉観光課も街路灯をお支払いしています。それは平成23年度に温泉街の街灯の創設事業というので12基設置しました。その12基の分はうちのほうで支払っております。電気代の取り扱いにつきましては、現在、商工会のほうにお尋ねしたところ、商工会のほうでも電気代をちょっと払えないかなということでしたけれども、この前、電話、お会いいたしまして、商工会と地元等でまた再度協議をお願いしたいということをお願いしております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

もう班のほうでは出さないということなんですね。それとあわせて、結局、あそこだけ真っ暗で華翠苑から先はとりあえず街灯ついているんですよ。ですから、余計あそこら辺が真っ暗な状況。だから、観光地としてのことを考える中においては、何らかの対策が必要であろうというふうに私は思いますので、事故が起きてからではもう遅いですから。ぜひ早目の対策をしていただきたいというふうに思います。その事故ということでありますけれども、早瀬課長、あそこ側溝の分は何年間ぐらいしていくんですか。

○議長（田口好秋君）

建設・新幹線課長。

○建設・新幹線課長（早瀬宏範君）

ちょっと今議員のお尋ねの分の側溝と申しますと、華翠苑から下野3区のほう、大体側溝のふたをかけていくにしても延長が長うございますので、3年から4年ぐらいかかるんじゃないのかなと思います。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

これは通告外ですので、それ以上言いません。

次に行きます。

最後になりますけれども、今、嬉野町の本通り商店街、本当に新しく家が建てかわり、今1つ新築中でありましてけれども、またもう1件新たに新築がなされます。そういう意味で、少しずつ活気が生まれてきているように思います。それで、うれしの温泉課長申されましたように、人の流れ、観光客の流れというものも少しずつにぎわいを取り戻している状況の中で、やはり今後の課題としては、この通告に出しておりますように、やっぱり電線の地中化

埋設、これが一番大事になってくるんじゃないかなど。そこによって通りの雰囲気というものが全然違ってくる、そのことについて市長いかがお考えですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

先日、県外の方が来られましたけれども、いろんな商店街がある中で、経営者が新しく来られたり、お店がリニューアルされたりしているのは嬉野市だけですよというふうなことで非常に嬉野市の商店街が少し変わってきたということの評価いただいたわけございまして、商店街組合の皆さん方には敬意を表したいと思います。

その中で、実は以前の段階で、電線地中化も一度、嬉野町のときに検討したことがございました。そのときには、何ていうですか、大型変圧器をどこに設置するのかとか、いろいろ課題があるということで、地中化についてはなかなか難しいということで、今以上に電線が交錯しておりましたけれども、それをまとめていただいて、少しすっきりはなったところでございます。

しかしながら、地中化につきましては、やはり将来的には必要だというふうに思いますので、いろんな事業の制度資金等を勉強させていただいて、そしてまた、九電さんあたりとの御意見も聞いてみたいなというふうに思っているところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

昭和通りの入り口、あそこら辺を地中化埋設して非常にすっきりになりましたよね。ですから、あれが本通りまで続いていくと、もう新幹線が開通になったときにはあそこら辺の通りを散策されるわけでありますので、やはりもうそれが今後に残された商店街の一番大きな問題であろうと。ぜひそのことについて前向きに、そして、早急に埋設できるように御努力をお願いしておきたいと思います。

足早に一般質問を行いましたけれども、今御提案申し上げたことについては再度情報収集をしていただいて、次年度、あるいはその次の年の施策というものに十二分に活かしていただきたいというふうに思います。

これで通告による一般質問というのは終わりますけれども、あと残された20日間、執行部の皆さん、議員は無論のことでありますけれども、嬉野市民の皆さん方が健康に留意され、新たな2016年を迎えることを御祈念申し上げまして、私の一般質問を終わりたいと思います。

○議長（田口好秋君）

これで山口要議員の一般質問を終わります。  
以上で本日の日程は全部終了いたしました。  
本日はこれにて散会いたします。

午後 3 時 2 分 散会